

8. 河川環境の整備と保全に関する目標

河川環境の整備と保全に関しては、流域が持つ歴史・文化・景観や多様な自然環境、河川が果たしてきた役割を認識すると共に、関係自治体や流域住民との共通認識のもとに、現存植生、土地利用、河川特性から流域を5つに区分した各エリアの特徴を活かした河川環境の整備に努めます。

都市を流れる河川は、都市空間としての景観及び親水性向上に努めるとともに、生物の生息・生育環境の向上を目指します。また、底質のダイオキシン類については、必要な調査を行い、適切な浄化対策を行うことにより、ダイオキシン類に係る底質および水質の環境基準の達成を目標とします。

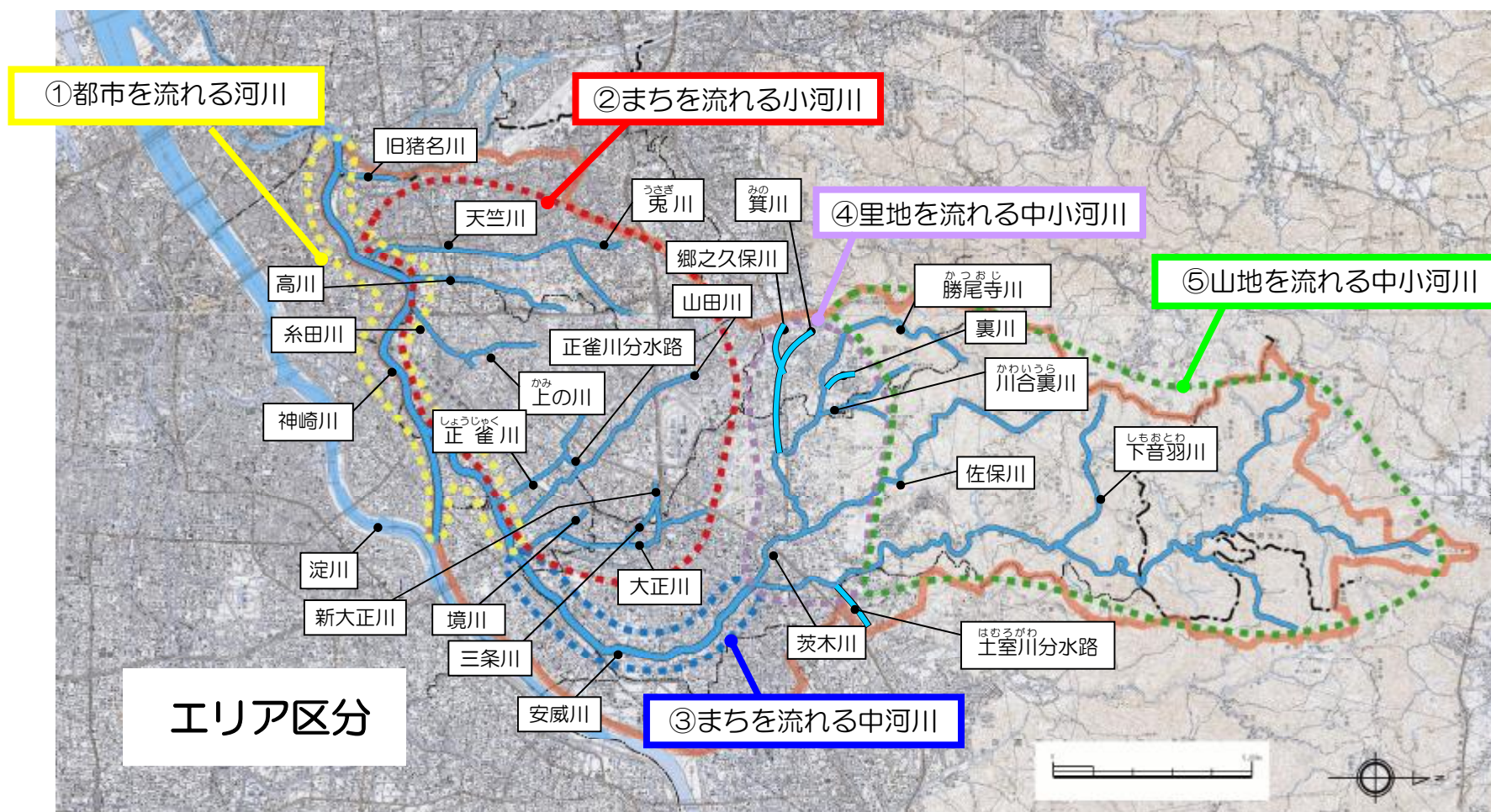
まちを流れる小河川は、生物が生息・生育できる多様な環境の創出を目指します。また、周辺緑地や水辺空間と連携することにより、オープンスペースとしての活用を図り、川とまちの連続性確保に努めます。沿川では、緑のネットワークや親水空間としての河川利用のニーズが高まってきているところもあることから、地域住民・NPOなどと連携し、整備後の維持管理も含め、官民一体となった整備を進めていきます。

まちを流れる中河川は、砂州が形成されており、瀬は魚類にとって捕食や産卵の場でもあり、また淵は魚類にとって休憩や退避の場となっていることから、瀬と淵の保全を図ります。また、河岸植生の保全を図り、緑地軸として高水敷利用への配慮を行います。

里地を流れる中小河川は、都市近郊の残された貴重な自然環境の保全や、田園風景との調和に配慮した整備を進めていきます。すでに護岸整備が行われている区間については、親水空間の向上に努めます。

山地を流れる中小河川は、当ブロックにおいて最も良好な自然環境が残されているエリアであるため、自然環境の保全に配慮し、周辺景観と一体となった河川整備に努めます。特に、安威川ダム建設予定地の周辺には多様な自然環境があるため、平成17年8月に策定した「安威川ダム自然環境保全マスタープラン」に基づき、動植物の生息環境の保全、新たに出現する水環境の保全・創出、地域との連携、自然環境豊かな流域の育成、を基本目標として環境保全に努めるとともに、都市近郊の貴重な水の空間としての利用を図ります。

なお大阪府自然環境保全条例において、河川は『治水、利水及び環境のバランスを考慮し、良好な自然環境の保全又は樹木、草花、地被類等の植栽、水辺に親しめる空間の整備等の緑化を行うこと』とされており、これらにも配慮した河川環境の整備に努めます。



平成 17 年 8 月 8 日

大阪府知事
太田 房江 様

安威川ダム自然環境保全マスタープランに対する委員会意見

安威川ダム自然環境保全対策検討委員会
委員長 朝 日 稔

安威川ダム自然環境保全対策検討委員会（以下、本委員会とする）は、平成 14 年 5 月に発足し、以後、4 回の委員会と 5 回の部会（動植物保全対策部会、水質保全対策部会）、現地視察会を実施し、安威川ダム建設に伴う自然環境保全対策について、審議を重ねてきた。

「安威川ダム自然環境保全マスタープラン（案）」について、平成 17 年 7 月 27 日に開催された第 4 回委員会を経て本委員会は了承に至った。

なお、これまでの審議経過から、現計画での原石候補地やルートを検討中のロック材運搬路については、豊かな自然環境を有した下音羽川流域に与える影響が懸念されることから、今後の慎重な検討を要望するため、本委員会は下記の意見を附することとした。

記

本委員会事務局より提案のあった、「安威川ダム自然環境保全マスタープラン（案）」については、以下の意見を附して了承する。

現計画での原石山候補地及びロック材運搬路については、経済的コスト面だけでなく、環境についても一定の配慮がなされているものの、下音羽川流域は豊かな自然環境を有した非常に貴重なものであり、原石山候補地及びロック材運搬路が与える影響は甚大である。

したがって、ロック材等の材料確保にあたり、入手方法や採取場所、採取方法について、現候補地以外も視野に入れて広く再考すべきである。

安威川ダム自然環境保全マスタープラン



平成 17 年 8 月
大 阪 府

4 安威川ダムの自然環境保全へ向けての基本目標と実施方針

水がつなく「自然・人・文化」を育む安威川ダム

<p>基本目標 1</p> <p>ダム事業者によるダム湖周辺を中心とした環境保全</p> <p>これまでの地域生態系の保全や、自然と人の営みの関わりによる新たな地域景観の形成に貢献できるよう、ダム事業による影響を可能な限り小さくすることを目標とします。</p>	<p>基本目標 2</p> <p>新たに出現する水環境の保全・創出</p> <p>新たに出現するダム湖及びダム下流における、水質の保全と生態系の保全・創出に取り組みます。</p>	<p>基本目標 3</p> <p>地域との連携</p> <p>人々の暮らしを支え、誇りとされるような安威川ダムを目指し、様々な主体による広範な分野からの参画を図ります。</p>	<p>基本目標 4</p> <p>自然環境の豊かな流域の育成</p> <p>安威川流域全体の良好な水環境・生態系の創出と健全な水循環の形成に取り組み、人と自然の新たな文化を育みます。</p>	<p>1</p> <p>自然生態系を基盤とする里山環境や渓流沿いの荒廃広葉樹林など、様々な動植物が生態・生育する「場」とこれらの環境を特徴づける「種」への影響を可能な限り回避・軽減・代償する対策を実施します。</p>	<p>2</p> <p>人々が育成してきた里山や棚田といった環境の回復に取り組みにあたっては、地域固有の動植物への配慮と継続的な環境管理を行っていきます。</p>	<p>3</p> <p>ダム湖周辺環境の保全対策を検討するにあたっては、自然（動植物や水質）、人の営み、文化の面から関わりを考慮するとともに、社会情勢の変化に応じた柔軟な検討を行います。</p>	<p>4</p> <p>工事中の濁水対策はもとより、ダム湖の富栄養化・濁り低減対策やダム下流での自然長母化・清濁水現象・土砂暴発量低下・河川の流況緩和化対策を計画的に検討・実施します。</p>
<p>基本目標 5</p> <p>様々な主体の参画と流域全体を視野に入れた長期的な取り組み</p> <p>安威川ダムが流域の中になじみ、人々とともに長くその役割を果たしていくことを目標とします。</p>	<p>5</p> <p>周辺環境との関わりに応じてダム湖及び河川環境の保全・創出に向けて、関係機関と連携し、対応に取り組みます。</p>	<p>6</p> <p>住民、ビジターや事業者、関係機関との連携・協力を図り、将来にわたるダム湖の環境管理や活用を行うしくみをつくり出します。</p>	<p>7</p> <p>人々がダムの役割やダム湖周辺の環境資源の情報を共有できるよう、情報発信拠点の整備を図ります。</p>	<p>8</p> <p>ダムを地域の拠点として人と自然の新たな文化が生まれることが期待できます。里とまちとの交流による環境学習の促進など、持続的な流域の形成へ向けに取り組みます。</p>			

安威川ダムオオタカ保全方策について 提言

平成14年9月19日
安威川ダムオオタカ調査委員会

「安威川ダムオオタカ調査委員会」では、平成12年8月28日に第1回委員会を開催して以来、7回にわたり、安威川ダム計画区域周辺に生息するオオタカなどについて、行動等に係る調査方法及び調査結果の解析・評価並びにその方法について検討してきた。また、生息環境の保全方策については、調査中といえども、繁殖期の工事の中止や、工法を変更し改変面積を大幅に縮小して谷筋の保全を図るなど、有効な対策を検討・実施してきたところである。

オオタカの調査結果については、計画区域内での営巣は確認できなかったが、周辺区域で生息するオオタカについて、その行動圏や飛行ルート等について多くの情報が得られ、繁殖期に示す行動パターンなどを明らかにした。

これらの調査結果と「安威川ダム計画」の自然環境に対する基本コンセプトを踏まえ、本委員会ではダム計画の周辺区域に生息するオオタカの保全を図るため以下のとおり提言する。

1. 「安威川ダム計画」では、周辺区域との調和及び計画区域における生態系の保全を図っていくことを基本コンセプトとしており、今後もこのコンセプトに沿って事業を実施すること。

2. 計画区域及びその周辺区域におけるオオタカの生息状況と保全対策

①生息状況

オオタカの営巣地はダム計画区域内では確認されていない。しかしながら、周辺区域においてはオオタカやサシバが営巣に利用している地域がある。このため、近傍での工事施工時の保全対策を検討する必要があり、毎年営巣場所を確認することが重要と考えられる。

②保全対策

オオタカの営巣地は計画区域内では確認されていないが、事業の実施に当たっては、生物の生息環境（生態系）に配慮し、オオタカなどの猛禽類も利用しやすい空間を創出するなど、適切な保全対策等を講じるものとする。

例えば、営巣地周辺の遮蔽のための植樹の実施、水鳥などが生息でき葦等の植生が可能な水辺空間の創出、ダム貯水池の洪水時の水位から平常時の水位までの斜面は付替道路の法面等で森林表土を利用し速やかに適切な緑化回復を図るようとする。

③造成・建設工事等に係る配慮

これまでの調査結果を解析したところ、工事によるオオタカの営巣や繁殖活動への影響は認

められなかったものの、ダム計画は広大な土地の改変を伴うことから、工事の実施にあたっては、オオタカの行動や営巣時期を配慮するなど生息環境の保全を図るものとする。

3. オオタカ以外の猛禽類の生息状況と保全対策について

オオタカ以外の猛禽類については、今回の3営巣期にわたる調査においてハチクマ、サシバ等の猛禽類が確認されている。このうち、ダム計画の周辺区域で営巣が確認されたサシバについてはオオタカと同様に工事中の配慮を行うものとする。

4. 今後の調査方針について

①営巣の確認

ダム計画周辺区域にオオタカが営巣するということを前提とし、引き続き営巣地を確認するための調査を行っていくこと。

また、新たな営巣地が特定された場合には、繁殖活動の状況について調査を行い、本委員会を開催し新たな保全策を検討するなど繁殖活動への影響を最小限にとどめるよう努めること。

②工事監視調査

営巣地の近傍において工事を行う場合には、工事調査を行い、工事の進め方や施工を工夫するなど検討を行い、必要に応じて工事にフィードバックすること。

5. 営巣地の保護

今回の調査結果により周辺地域で確認されたオオタカなどの営巣地についての場所を特定するような情報は、密猟や写真撮影等により多数の人々が営巣周辺に出入りし、繁殖活動に影響を及ぼす可能性があるため、公表は行わない。

○平成17年の調査状況



オオタカの育雛状況

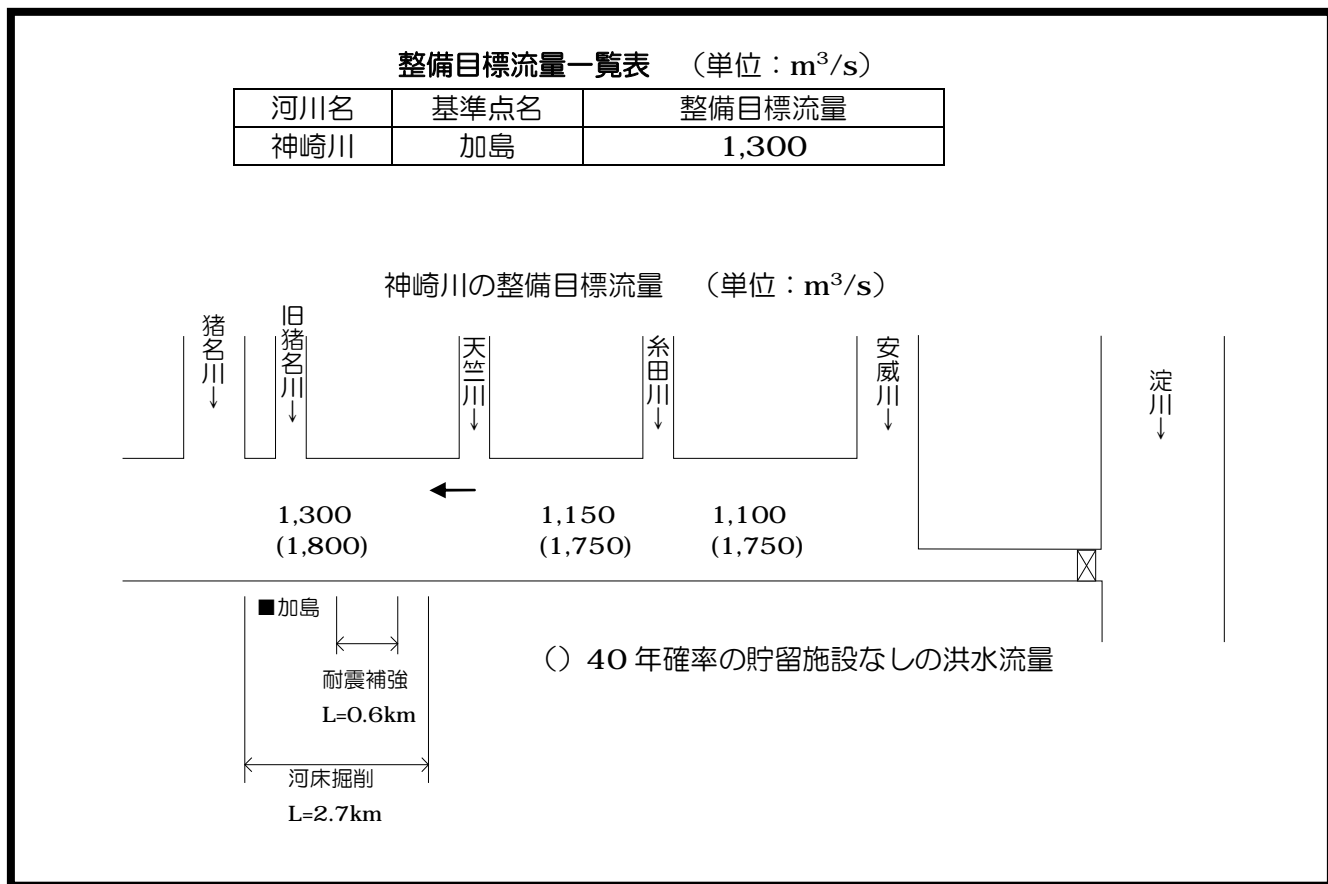
オオタカの幼鳥

第2章 河川整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施工の場所並びに当該河川工事の施工により設置される河川管理施設の機能の概要

1. 神崎川（猪名川合流点上流）

神崎川の河川整備は、概ね40年に一度発生する規模の降雨（日雨量207mm）による洪水を対象とし、計画対象区間において、現況河道の掘削や土堤の耐震補強等を行います。改修にあたっては、周辺の環境に配慮します。



計画対象区間と整備内容

	整備内容	区 間	概 要
神崎川 (猪名川合流点上流)	河床掘削	猪名川合流点上流 ～新三国橋下流 L=2.7km	河床の掘削を行います。実施にあたっては周囲への影響が小さくなるように配慮します。
	耐震補強	おおとよ橋～かみす橋 大豊橋～神洲橋 L=0.6km	地震防災アクションプログラム(平成10年3月、平成21年3月改訂)に沿って、震度6強程度の直下型地震により被災した際にも、津波等による二次災害を生じさせない堤防高さを確保できる土堤等の耐震補強を行います。

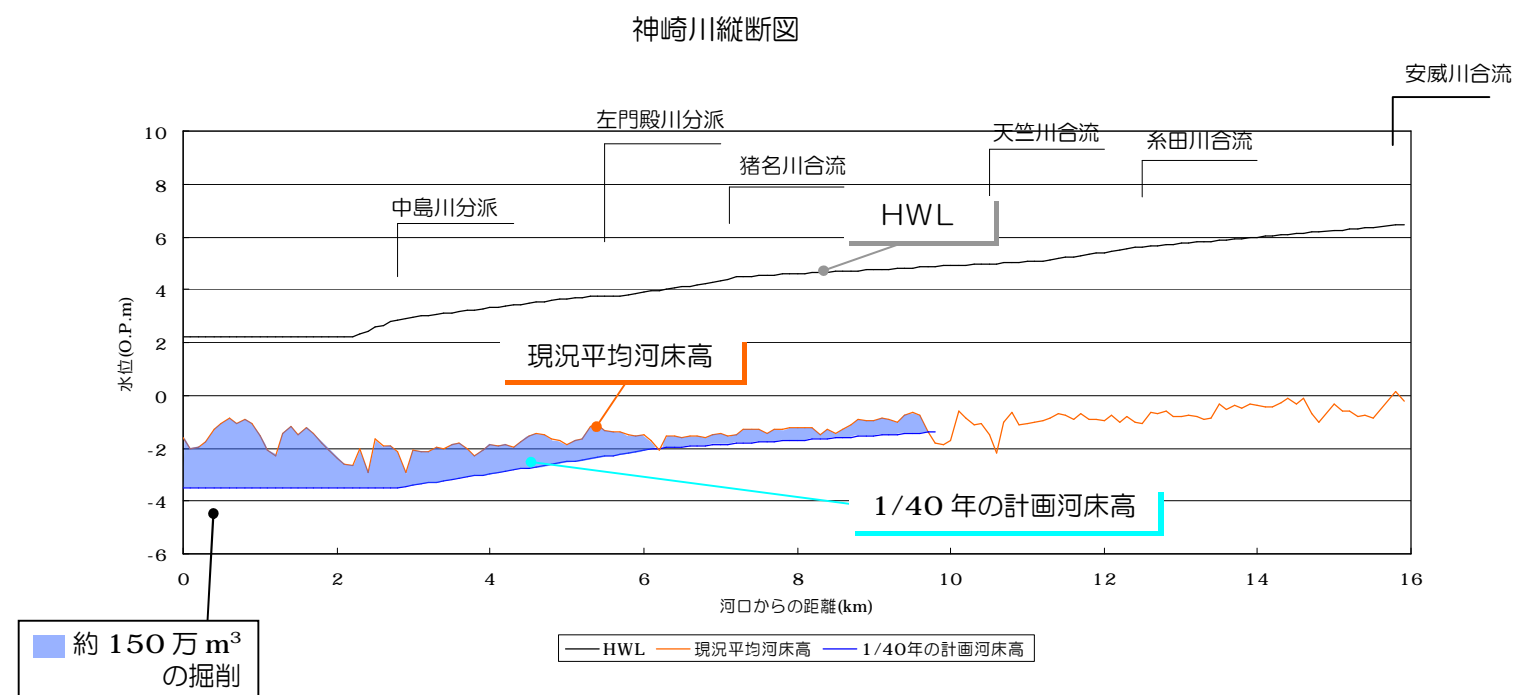
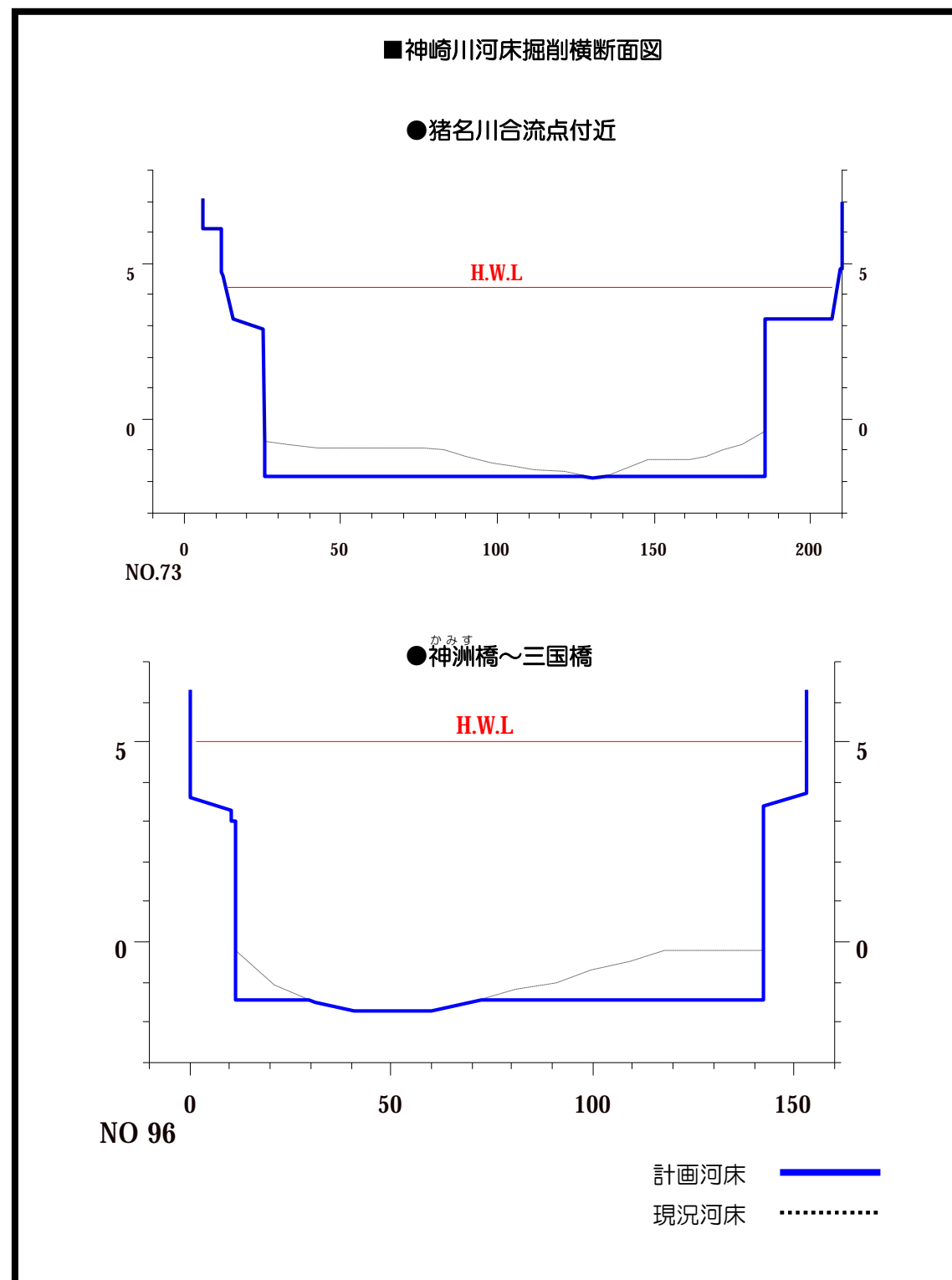
神崎川の計画諸元表

項目	神崎川	
流域面積	市街地	119.5 km ²
	公園・緑地等	10.6 km ²
	水田	11.4 km ²
	山林	61.4 km ²
	水面	5.2 km ²
	合計	208.1 km ²
流路延長	11.4km	
計画対象雨量（日雨量）	207 mm/日	
確率規模	1/40年	
算定方法	Gumbel	
等価粗度	市街地	0.03
	丘陵地	0.30
	水田	2.00
	山地	1.00
	水面	0.00
整備目標流量 (安威川ダムなし)	基準点	加島
	ピーク流量	1,800 m ³ /s
	ピーク決定波形	S47.9
	比流量	8.6 m ³ /s/km ²
整備目標流量 (安威川ダムあり)	基準点	加島
	ピーク流量	1,300 m ³ /s
	ピーク決定波形	S42.7
	比流量	6.2 m ³ /s/km ²
流出計算方法	等価粗度法	
備考	神崎川ブロック内	

●河床掘削

神崎川では治水安全度の向上を目指して河床掘削を行います。

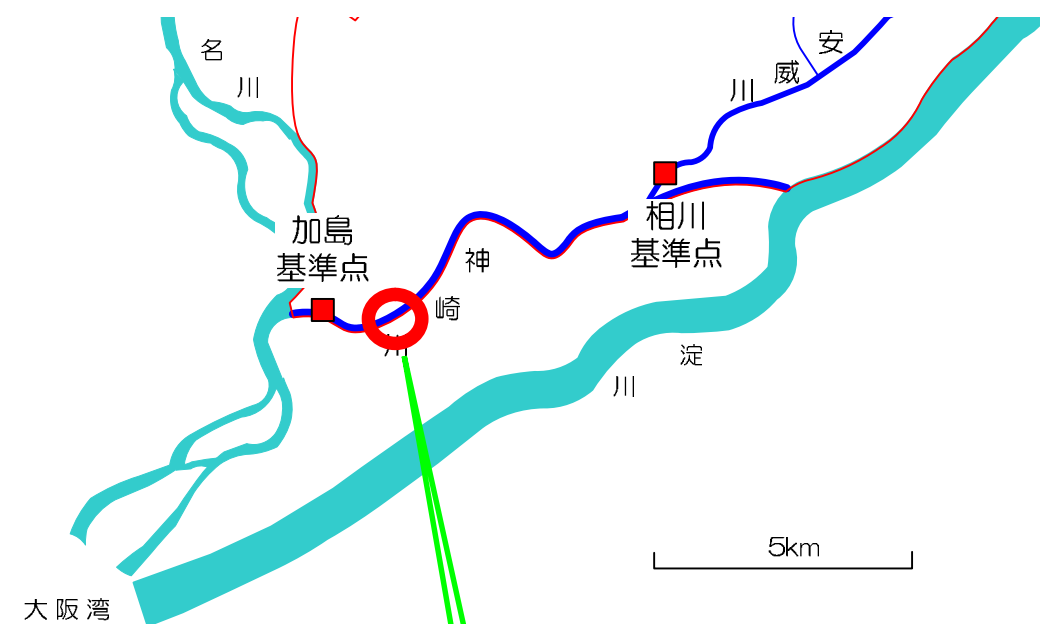
神崎川では整備期間内の目標を、概ね40年に1度として河床掘削を進めていきます。



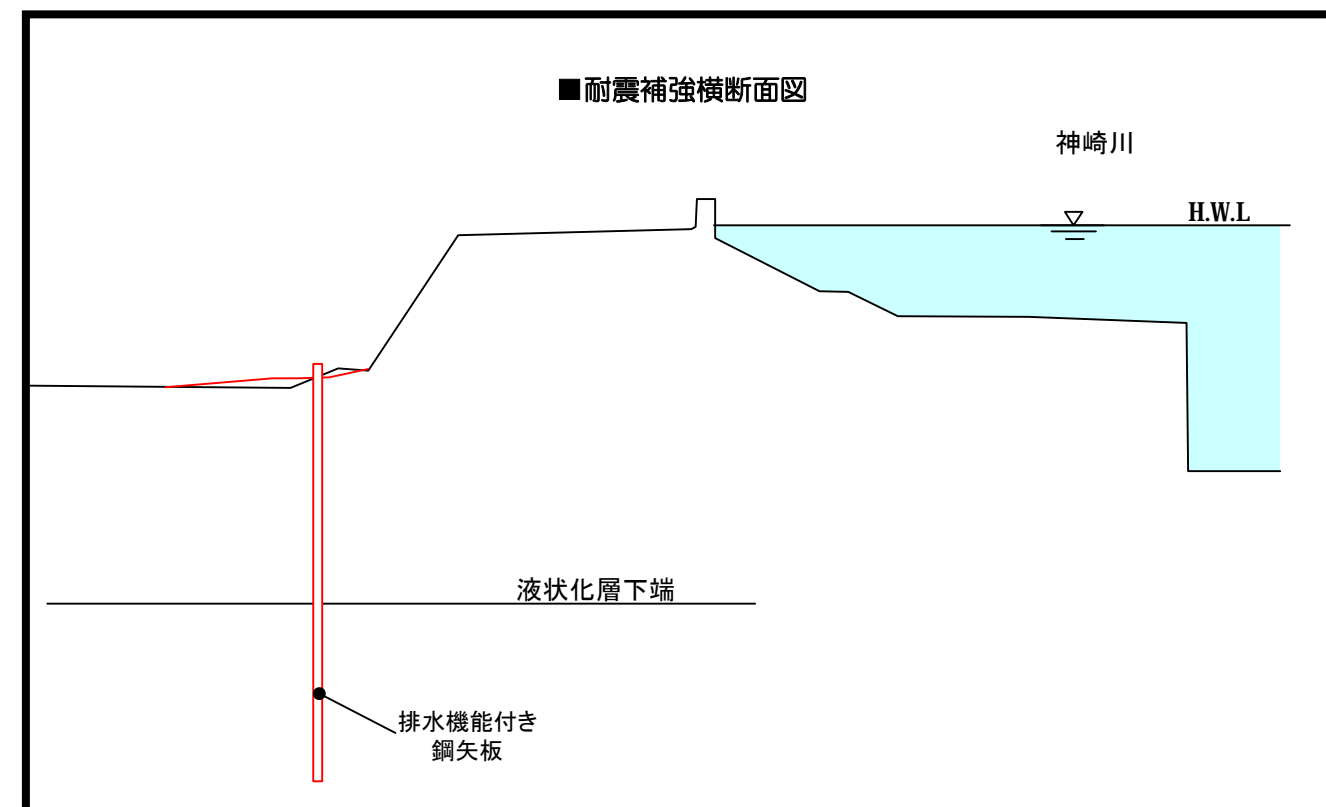
●耐震補強

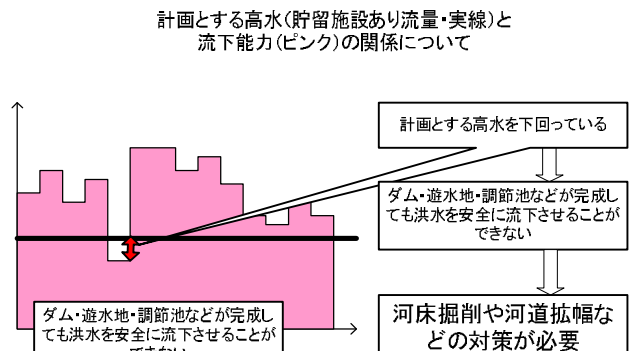
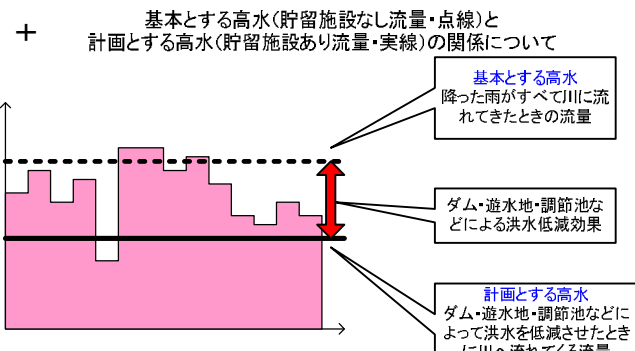
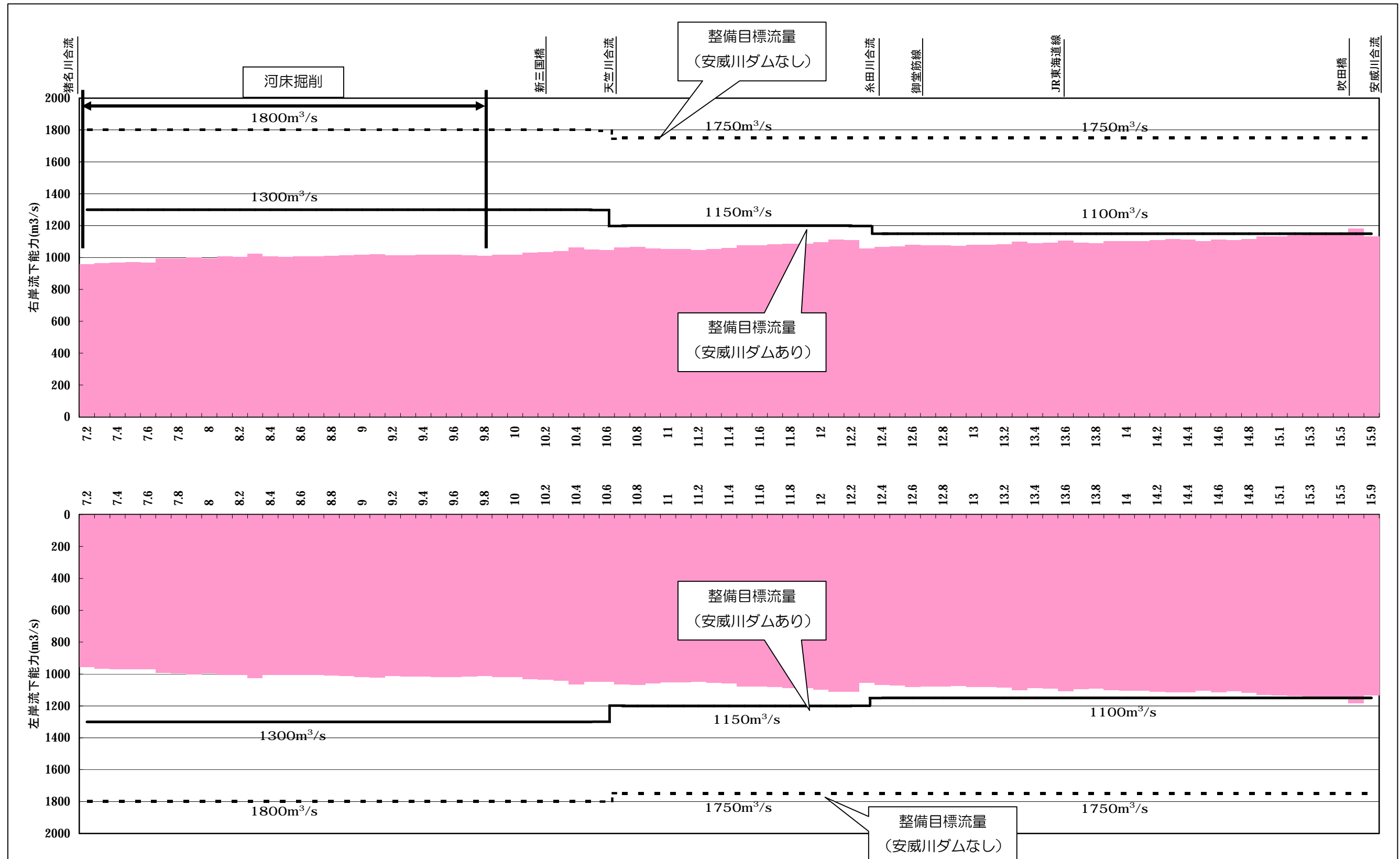
地震防災アクションプログラム（平成10年3月）に沿って、震度6強程度の直下型地震により被災した際にも、津波等による二次災害を生じさせない堤防高さを確保できる土堤の耐震補強を行います。

神崎川では下記の地点が該当し、延長は約0.6kmです。



神洲橋より下流を撮影





神崎川流下能力

HWL流下能力
 整備目標流量(安威川ダムあり・1/40年)
 整備目標流量(安威川ダムなし・1/40年)

2. 安威川

安威川の河川整備は、概ね 100 年に一度発生する規模の降雨（日雨量 247mm）による洪水を対象とし、計画対象区間において、洪水調節、流水の正常な機能の維持のために安威川ダムを建設します。

ダムの建設にあたっては、周辺の自然環境への影響を考慮して、自然環境保全マスタープランに基づいた保全対策を行います。

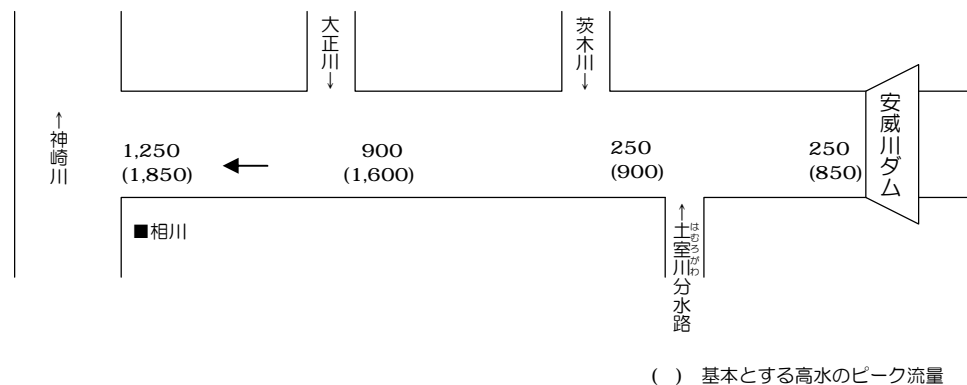
また、ダムの完成後、下流河道における水生生物の生息環境など河川環境の保全のために環境改善容量を利用した放流を行い、流況改善を図ります。

土室川分水路は、ダム建設完了まで、安威川への放流制限をしていることから、ダム建設完了後は、放流制限を解除するための放流口の改良を行います。

計画とする高水流量一覧表 (単位：m³/s)

河川名	地点	確率日雨量(mm)	基本とする高水のピーク流量	計画とする高水流量
安威川	ダム	247	850	250
	相川基準地点		1,850	1,250

安威川の整備目標流量 (単位：m³/s)

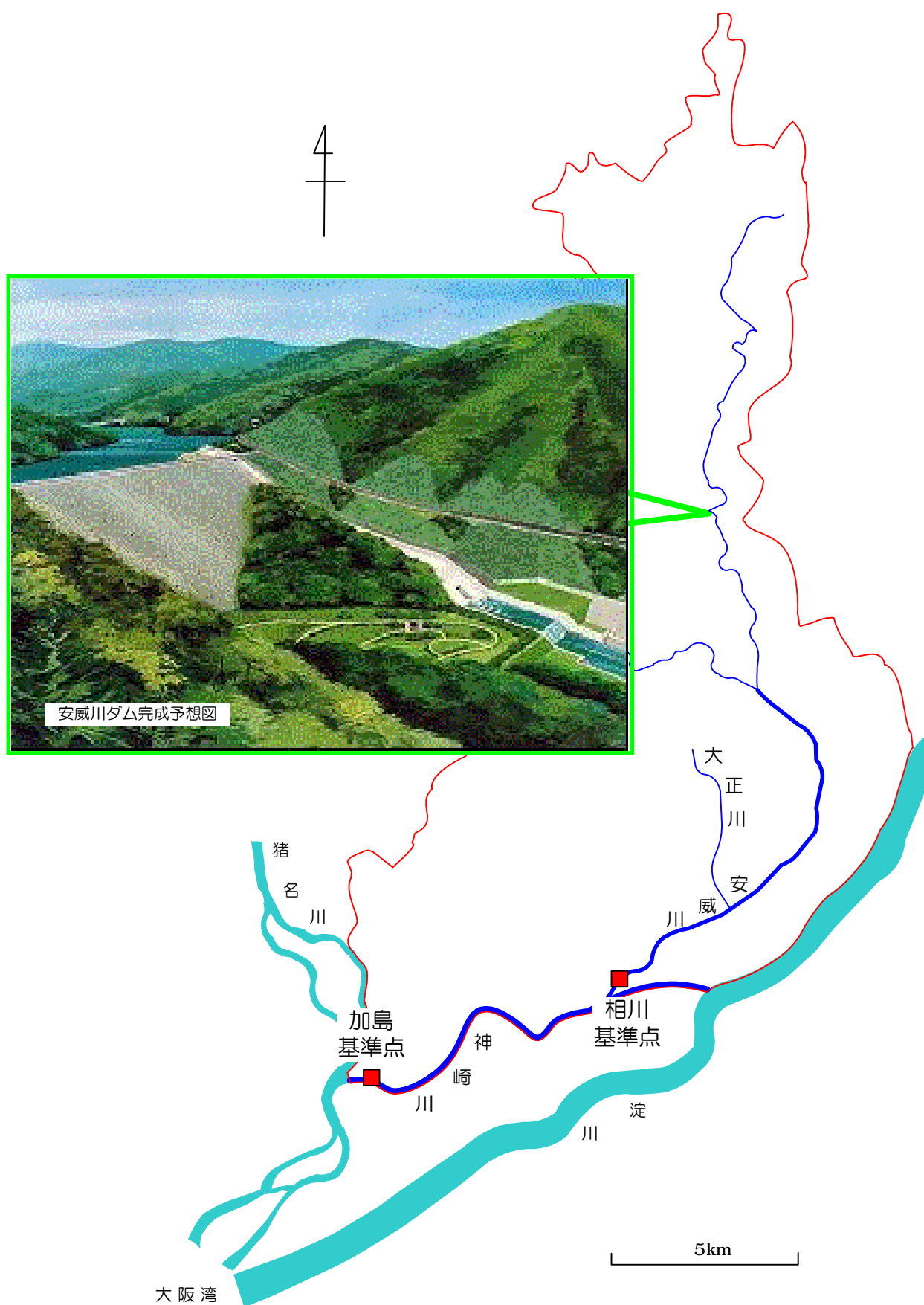


計画対象区間と整備内容

	整備内容	区間	概要
安威川	ダム	茨木市大字生保、安威、大門寺地先	安威川ダムの建設を行います。ダムの建設にあたっては、自然環境に配慮した工事を行います。また、現況環境の保全を図ります。

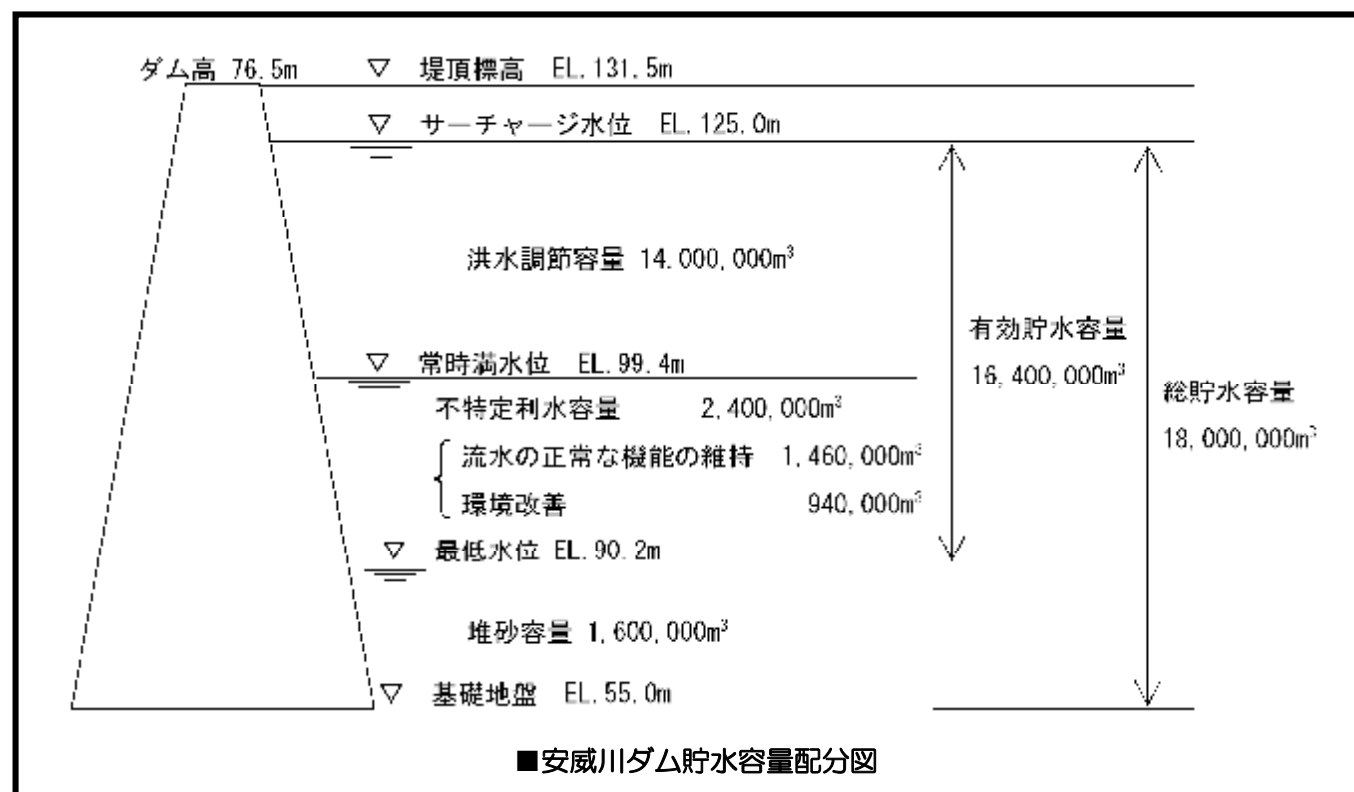
安威川の計画諸元表

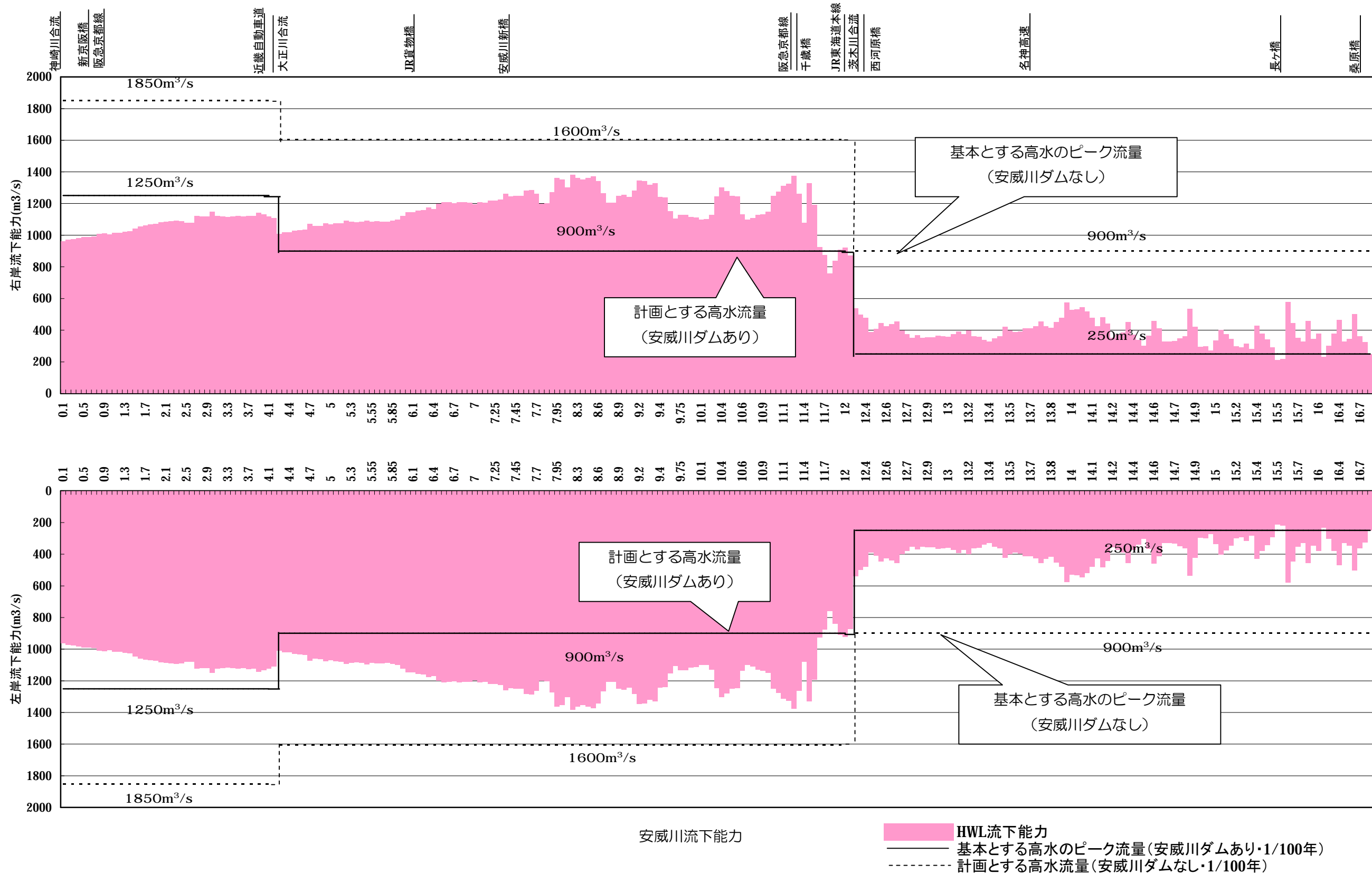
項目	安威川	
流域面積	市街地	78.6 km ²
	公園・緑地等	8.2 km ²
	水田	11.4 km ²
	山林	61.4 km ²
	水面	3.2 km ²
	合計	162.7 km ²
流路延長	28.2km	
計画対象雨量（日雨量）	247 mm/日	
確率規模	1/100年	
算定方法	Gumbel	
等価粗度	市街地	0.03
	丘陵地	0.30
	水田	2.00
	山地	1.00
	水面	0.00
	基本とする高水（安威川ダムなし）	基準点
	ピーク流量	1850 m ³ /s
	ピーク決定波形	S47.9
	比流量	11.4 m ³ /s/km ²
計画とする高水（安威川ダムあり）	ピーク流量	1,250 m ³ /s
	ピーク決定波形	S42.7
	比流量	9.8 m ³ /s/km ²
安威川ダム洪水調節容量決定波形	S28.9	
流出計算方法	等価粗度法	
備考		



■ 安威川ダムの諸元

- 目的 : 洪水調節、流水の正常な機能の維持、環境改善
- 位置 : 左岸 大阪府茨木市大字生保、安威地先
右岸 大阪府茨木市大字大門寺地先
- 形式 : 中央コア型ロックフィルダム
- 堤高 : 76.5m
- 堤頂長 : 約 350m
- 集水面積 : 52.2km²
- 湛水面積 : 0.81km²
- 総貯水容量 : 18,000,000m³
- 洪水調節方式 : 自然調節方式





3. 天竺川

天竺川の基本とする高水は、概ね 100 年に一度発生する規模の降雨(時間雨量 85.5mm)による洪水を対象とし、そのピーク流量は、基準地点「天竺川橋」において 170m³/s とします。これを流出抑制施設等の整備を行うことにより、基準地点「天竺川橋」において 160 m³/s とします。

計画とする高水流量一覧表 (単位：m³/s)

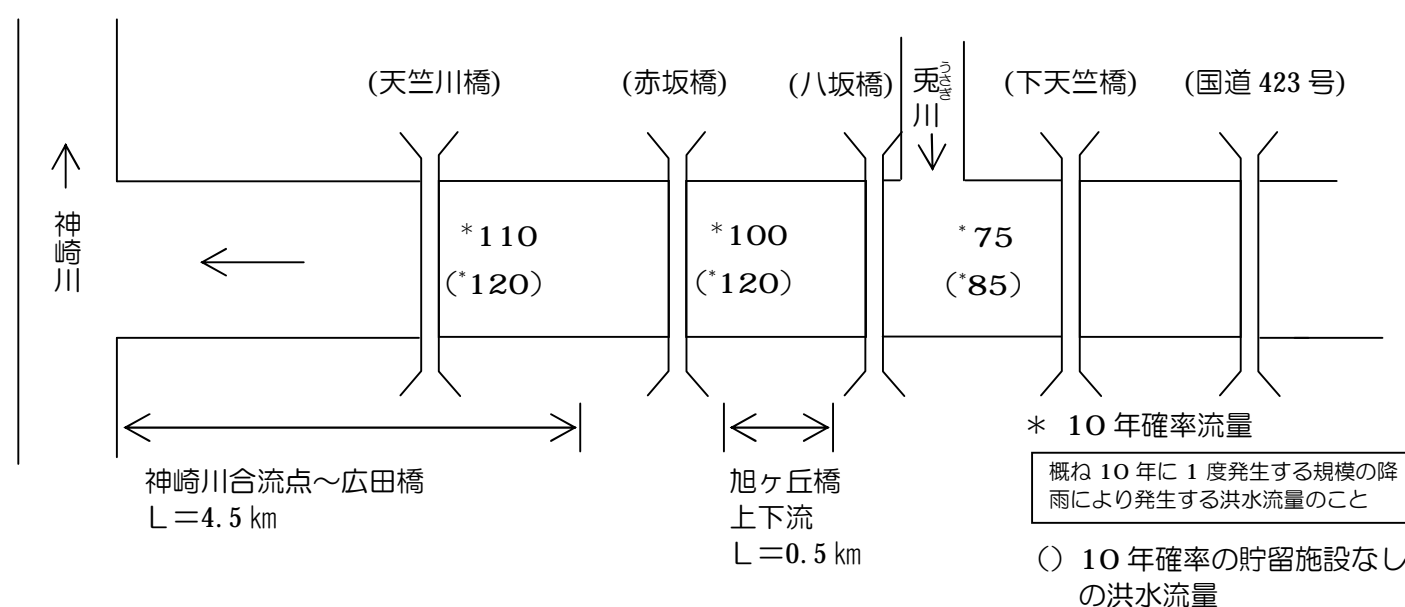
河川名	基準点名	基本とする高水のピーク流量	計画とする高水流量
天竺川	天竺川橋	170	160

天竺川の河川整備は概ね 10 年に一度発生する規模の降雨(時間雨量 58.4mm)による洪水を対象とし、計画対象区間において、護岸の^{かさ}高上げや河床掘削等を行うとともに、流域内のため池などの既存貯留施設の有効活用や新規調節池などの流出抑制施設を整備します。改修にあたっては、地域住民に愛着を持ってもらえる河川空間の形成などを目的とした協議会が設置されていることから、この協議会と連携しながら、広田橋から下流の治水及び環境整備にも取り組みます。また天井川であることを考慮して、堤防点検等の結果、対策が必要となる箇所では、老朽化対策や堤防の質的強化に努めます。

整備目標流量一覧表 (単位：m³/s)

河川名	基準点名	整備目標流量
天竺川	天竺川橋	110

天竺川の整備目標流量

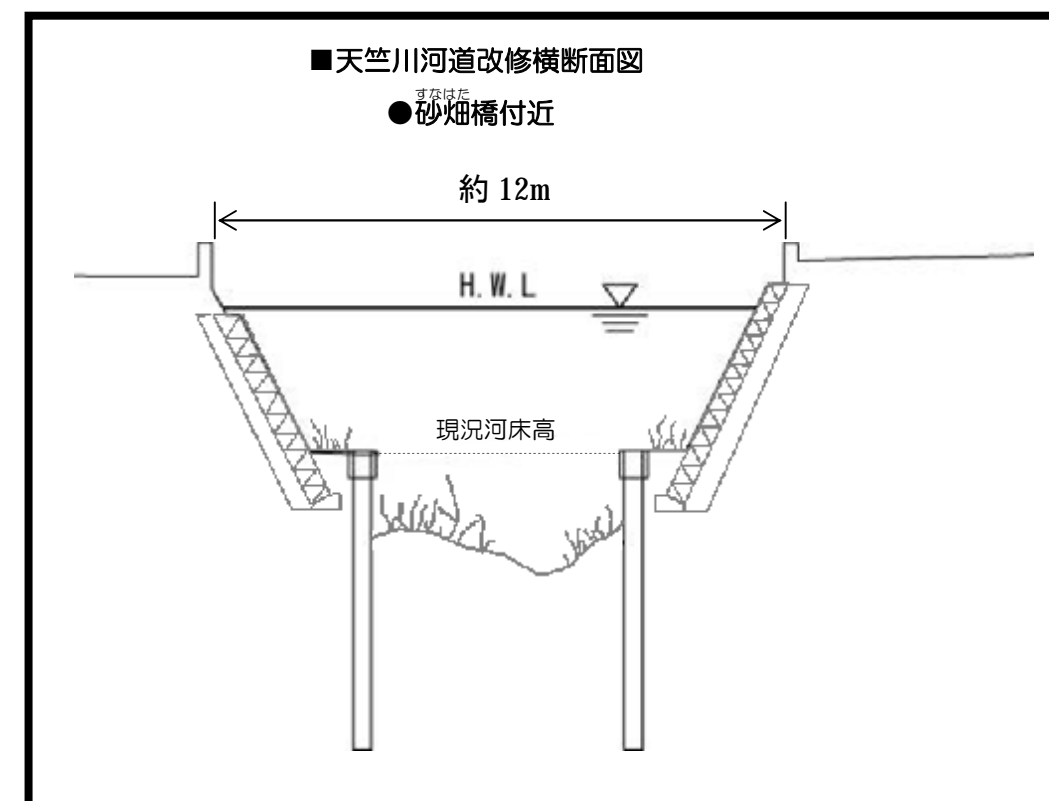


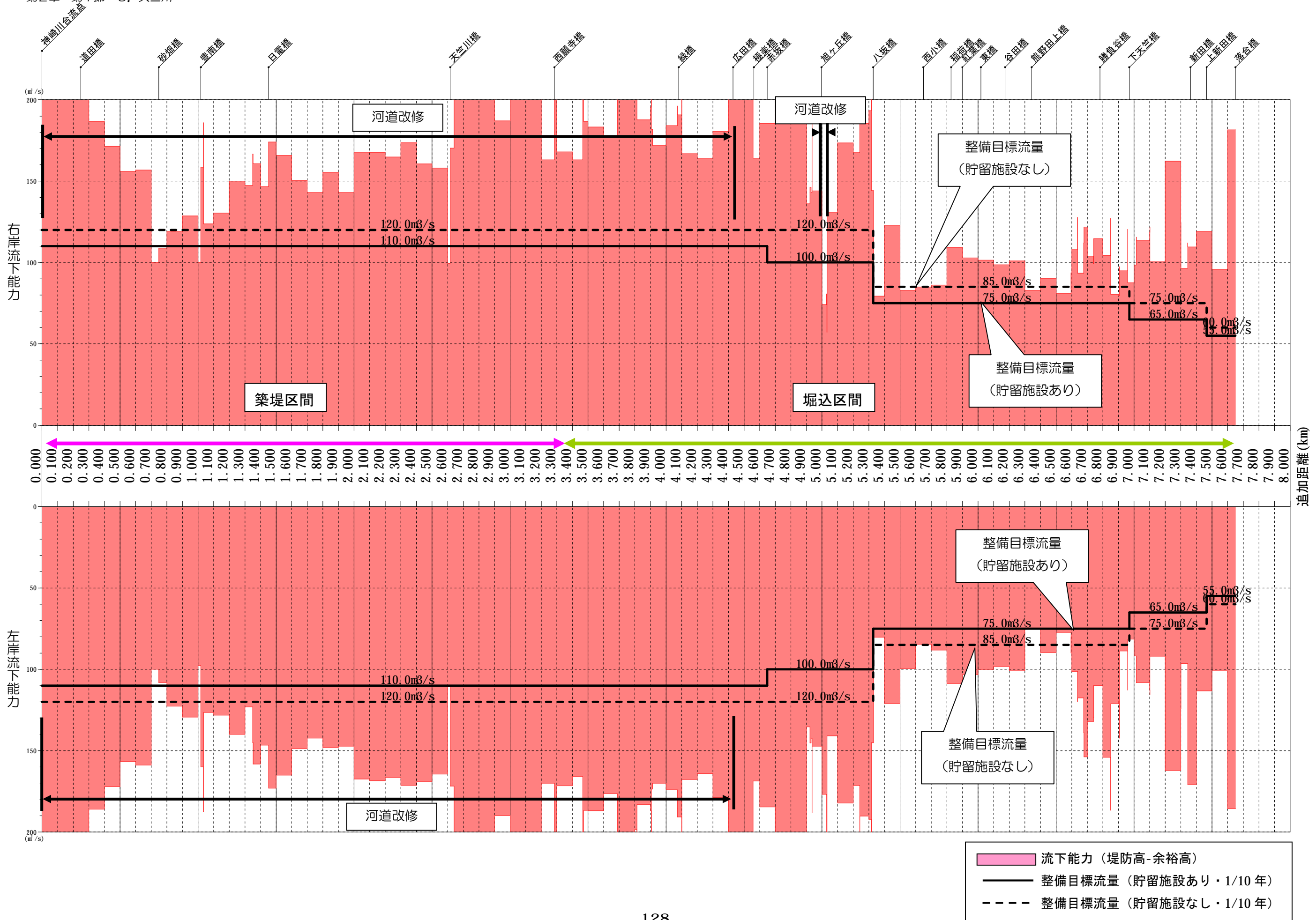
計画対象区間と整備内容

	整備内容	区間	整備内容
天竺川	河道改修 L=4.5 km	神崎川合流点～広田橋	河床掘削等の河道改修や環境整備を行います。
	河道改修 L=0.5 km	旭ヶ丘橋上下流	護岸 ^{かさ} 高上げ、河床掘削等を行います。
	流出抑制施設	はっとり 服部緑地上流	ため池などの既存貯留施設の有効活用や新規調節池等を整備します。

天竺川の計画諸元表

項目		天竺川	
流域面積 (km ²)	密集市街地	0.13	0.07
	一般市街地	6.29	4.24
	畑・原野	0.14	0.09
	水田	0.19	0.10
	山地・公園緑地	1.85	0.85
	河川・ため池	0.18	0.10
	合計	8.77	5.46
流路延長 (km)		5.20	2.46
標高差 (km)		31	16
洪水到達時間 (分)		54	46
算定法		等流流速法	
計画対象雨量	到達時間内降雨強度 (mm/hr)	61.2	65.7
	60分雨量 (mm)	58.4	58.4
	降雨強度式適用地区	豊能地区	
確率規模		1/10年	1/10年
算定方法		Gumbel	
流出率	密集市街地	0.9	
	一般市街地	0.8	
	畑・原野	0.6	
	水田	0.7	
	山地・公園緑地	0.7	
	河川・ため池	1.0	
目標流量 (貯留施設なし)	基準点	天竺川橋	兎川合流点上流
	ピーク流量 (m ³ /s)	120	85
	比流量 (m ³ /s/km ²)	13.7	15.6
目標流量 (貯留施設あり)	ピーク流量 (m ³ /s)	110	75
	ピーク決定波形	中央集中型モデル降雨	
	比流量 (m ³ /s/km ²)	12.5	13.7
流出計算方法		合成合理式	
備考			

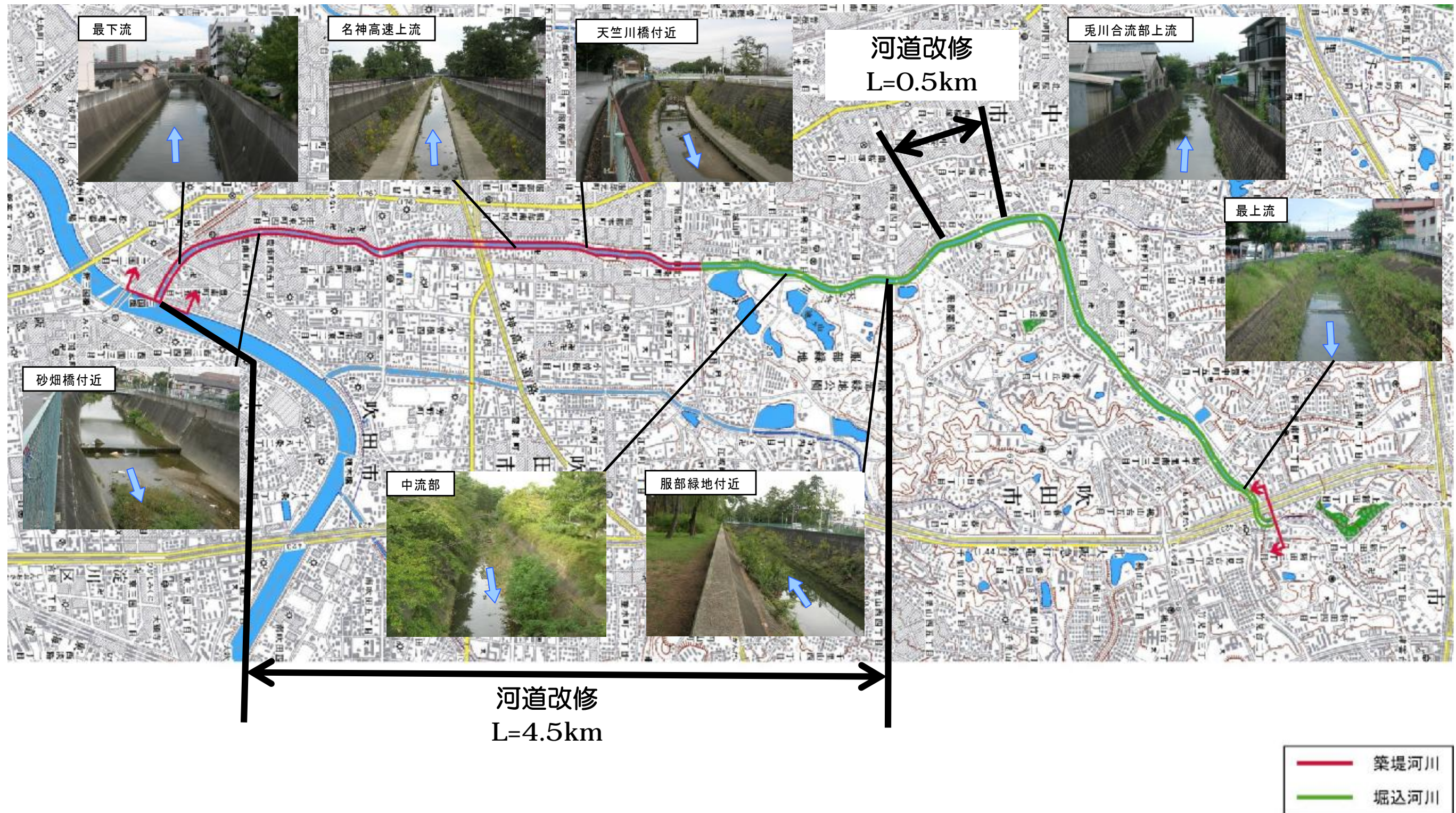




天竺川流下能力図

*八坂橋より上流は、堤防満杯流量

天竺川平面図



4. 高川

高川の基本とする高水は、概ね 100 年に 1 度発生する規模の降雨(時間雨量 84.0mm)による洪水を対象とし、そのピーク流量は、基準地点「水路橋」において 90 m³/s とします。これを流出抑制施設の整備を行うことにより、基準地点「水路橋」において 75 m³/s とします。

計画とする高水流量一覧表 (単位：m³/s)

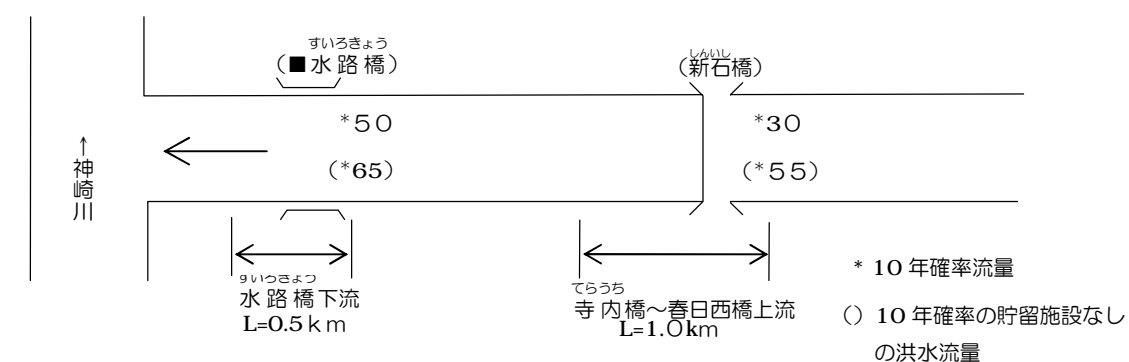
河川名	基準点名	基本とする高水のピーク流量	計画とする高水流量
高川	水路橋	90	75

高川の河川整備は概ね 10 年に一度発生する規模の降雨(時間雨量 57.5mm)による洪水を対象とし、計画対象区間において、河道拡幅、河床掘削を行うとともに、流域内のため池などの既存貯留施設の有効活用や新規調節池などの流出抑制施設を整備します。また、天井川であることから下流部の老朽化した水路橋の架替や護岸の改修を行うとともに、堤防点検等の結果、対策が必要となる箇所では、老朽化対策や堤防の質的強化に努めます。改修にあたっては、周辺の環境に配慮します。

整備目標流量一覧表 (単位：m³/s)

河川名	基準点名	整備目標流量
高川	水路橋	50

高川の整備目標流量 (単位：m³/s)

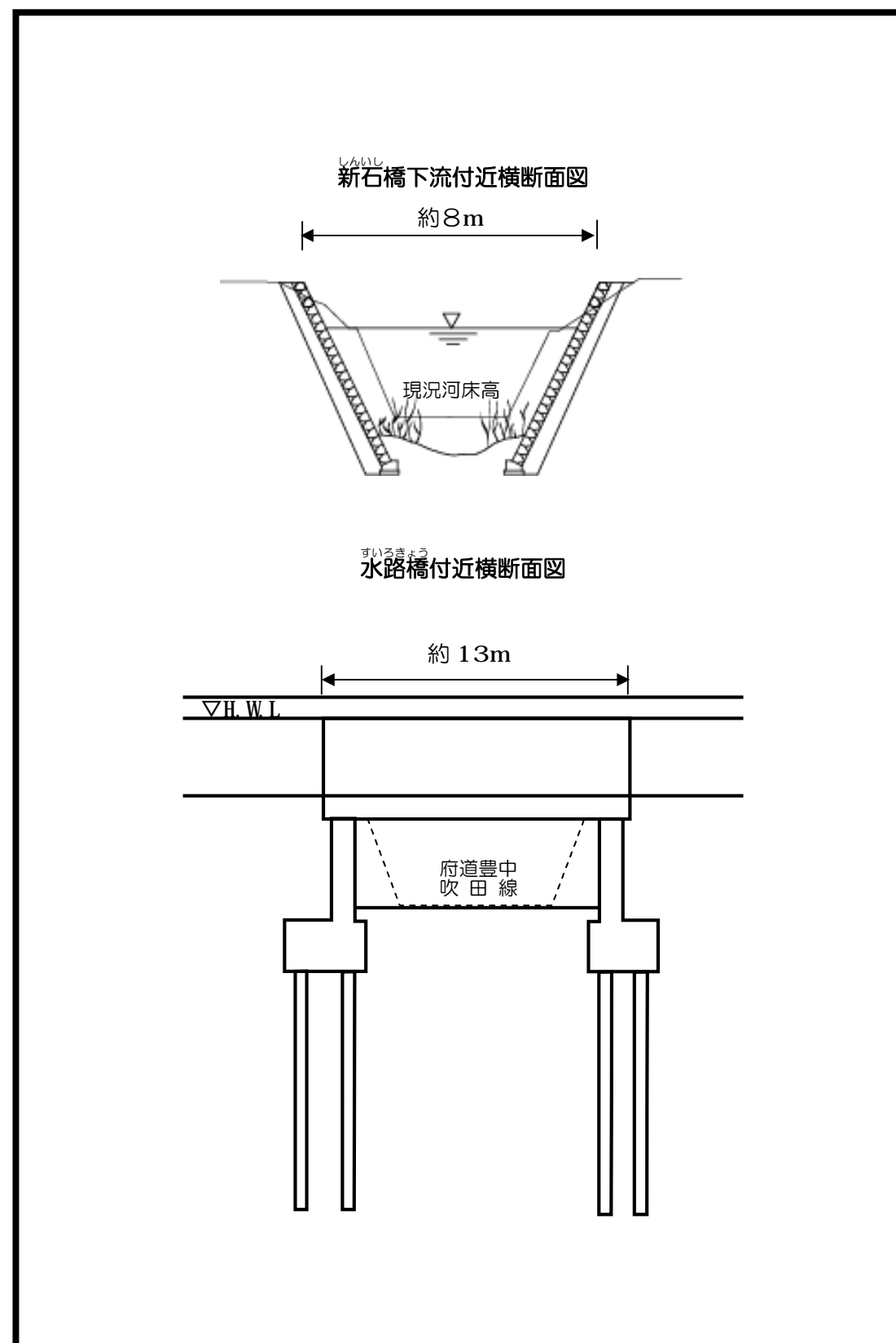


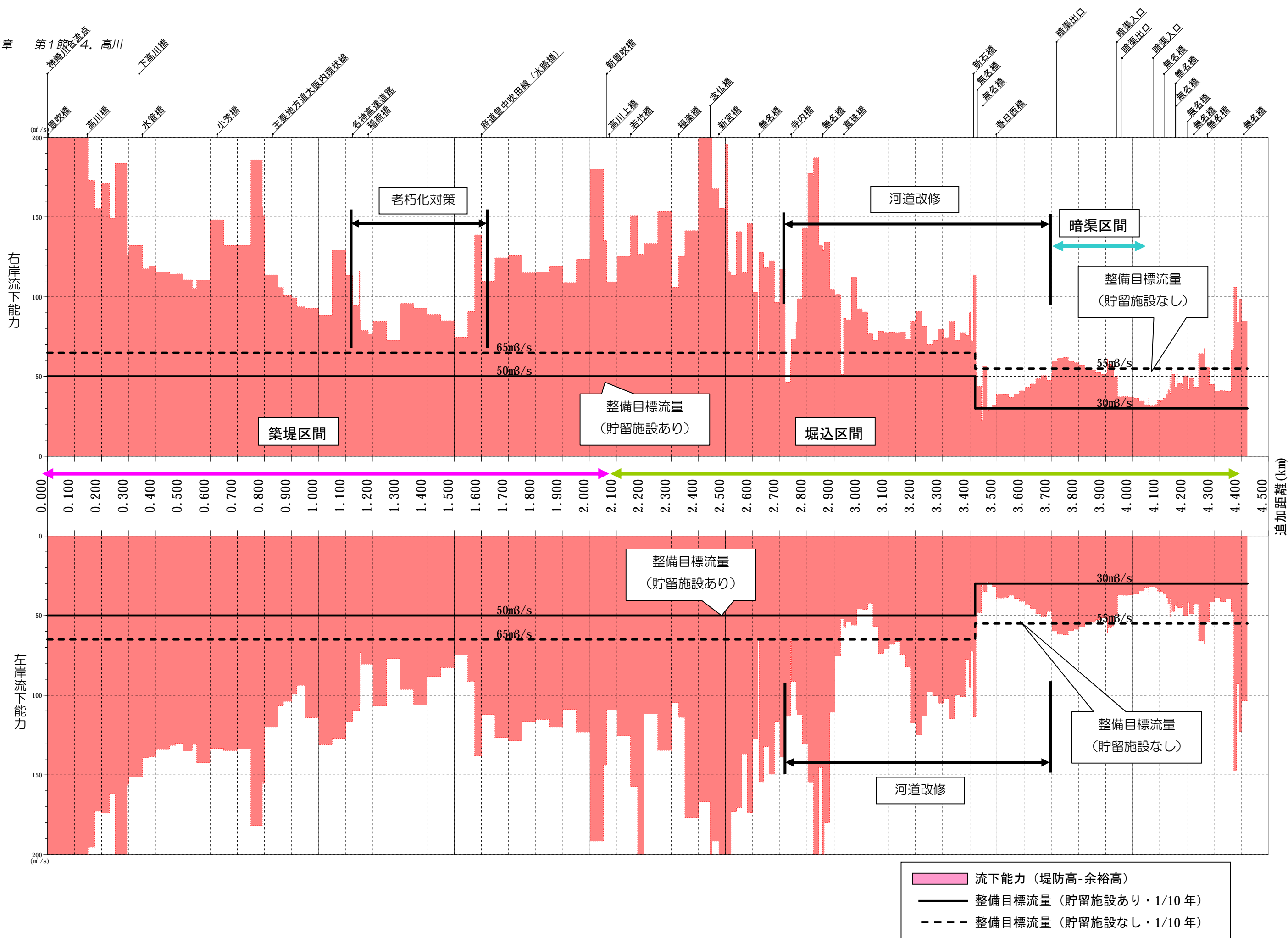
整備対象区間と整備内容

	整備内容	区間	概要
高川	老朽化対策 L=0.5km	水路橋下流	老朽化した水路橋の架替、護岸の改修を行います。
	河道改修 L=1.0km	寺内橋～春日西橋上流	河道拡幅、河床掘削等を行います。
	流出抑制施設	春日西橋上流	ため池などの既存貯留施設の有効活用や新規調節池等を整備します。

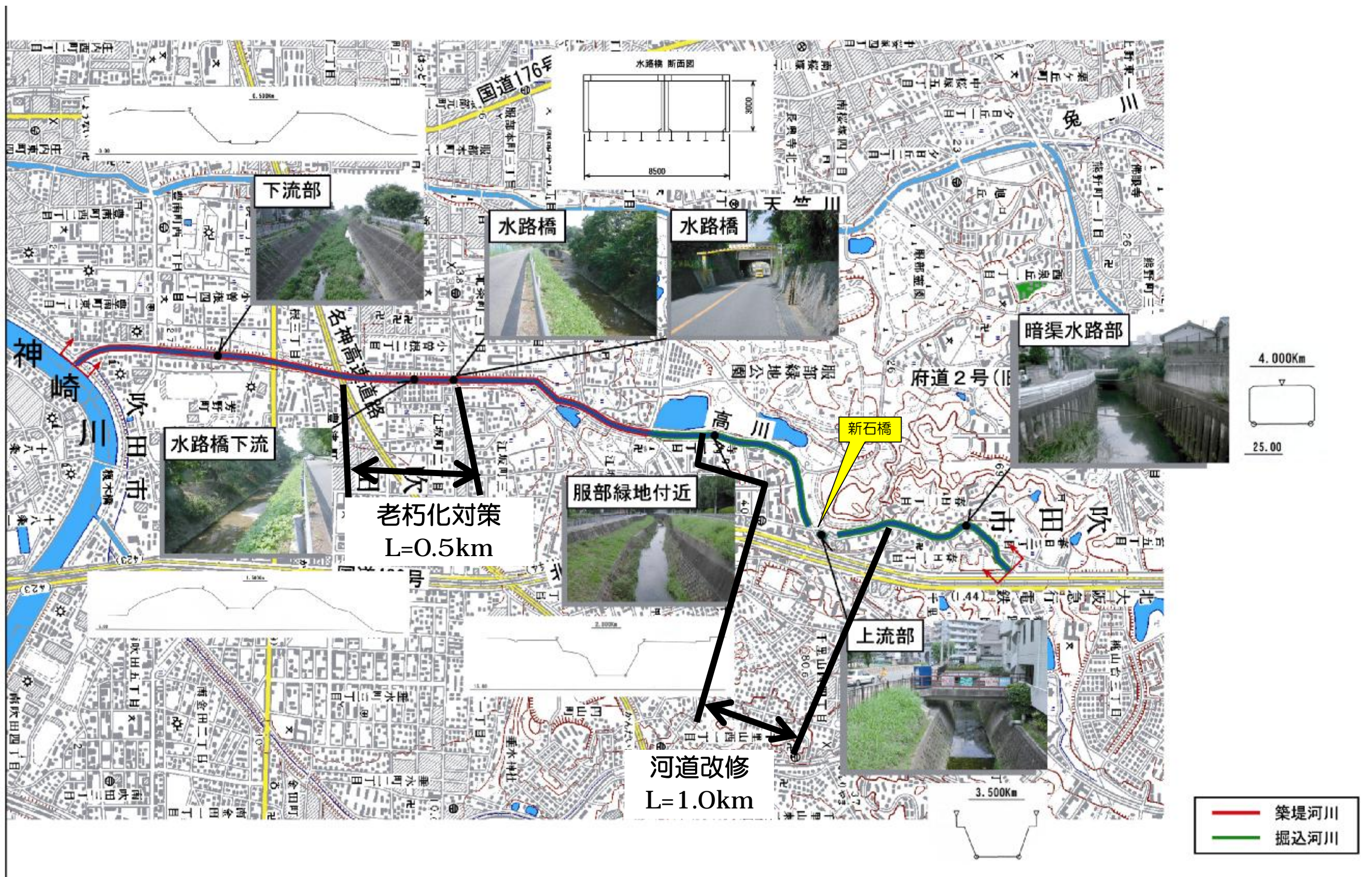
高川の計画諸元表

項目		高川	
流域面積 (km ²)	密集市街地	0.04	0.03
	一般市街地	2.66	2.02
	畑・原野	0.08	0.06
	水田	0.11	0.10
	山地・公園緑地	0.88	0.58
	河川・ため池	0.09	0.08
	合計	3.86	2.87
流路延長 (km)		4.53	2.65
標高差 (m)		40	28
洪水到達時間 (分)		33	26
算定法		等流流速法	
計画対象雨量	到達時間内降雨強度 (mm/hr)	74.8	82.8
	60分雨量(mm)	57.5	57.5
	降雨強度式適用地区	三島地区	
確率規模		1/10年	1/10年
算定方法		Gumbel	
流出率	密集市街地	0.9	
	一般市街地	0.8	
	畑・原野	0.6	
	水田	0.7	
	山地・公園緑地	0.7	
	河川・ため池	1.0	
整備目標流量 (貯留施設なし)	基準点	水路橋	新石橋
	ピーク流量(m ³ /s)	65	55
	比流量(m ³ /s/km ²)	16.8	19.2
整備目標流量 (貯留施設あり)	ピーク流量(m ³ /s)	50	30
	ピーク決定波形	中央集中型モデル降雨	
	比流量(m ³ /s/km ²)	13.0	10.5
流出計算方法		合成合理式	
備考			





高川流下能力図 132



5. 糸田川・上の川

糸田川・上の川の基本とする高水は、概ね 100 年に 1 度発生する規模の降雨(時間雨量 84.0mm)による洪水を対象とし、そのピーク流量は、糸田川基準地点「五反田橋」において 90m³/s、上の川基準地点「上の川橋」において 60m³/s とします。これを流出抑制施設の整備をおこなうことにより、糸田川の基準点「五反田橋」において 80m³/s、上の川の基準点「上の川橋」において 46m³/s とします。

計画とする高水流量一覧表 (単位：m³/s)

河川名	基準点名	基本とする高水のピーク流量	計画とする高水流量
糸田川	五反田橋	90	80
上の川	上の川橋	60	46

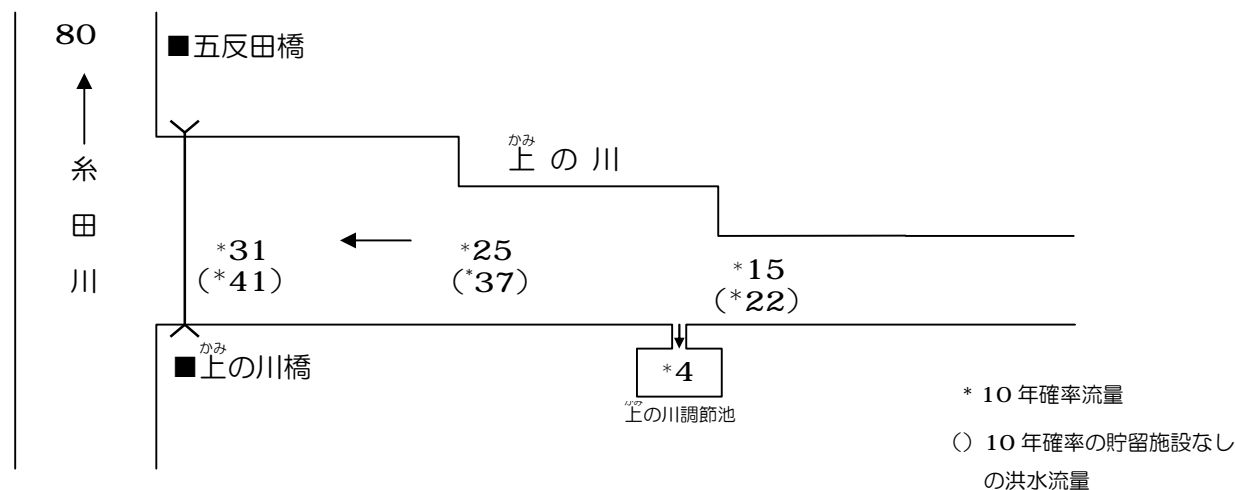
糸田川は管理区間の最上流部の一部を除き概ね 100 年に 1 度発生する規模の降雨(時間雨量 84.0mm)による洪水に対応できる整備が完了しています。上の川の整備は概ね 10 年に一度発生する規模の降雨(時間雨量 57.5mm)による洪水を対象とし、計画対象区間において、流域内のため池などの既存貯留施設の有効活用や新規調節池などの流出抑制施設を整備します。

改修にあたっては、周辺の環境に配慮します。

整備目標流量一覧表 (単位：m³/s)

河川名	基準点名	整備目標流量
上の川	上の川橋	31

糸田川・上の川の整備目標流量 (単位：m³/s)

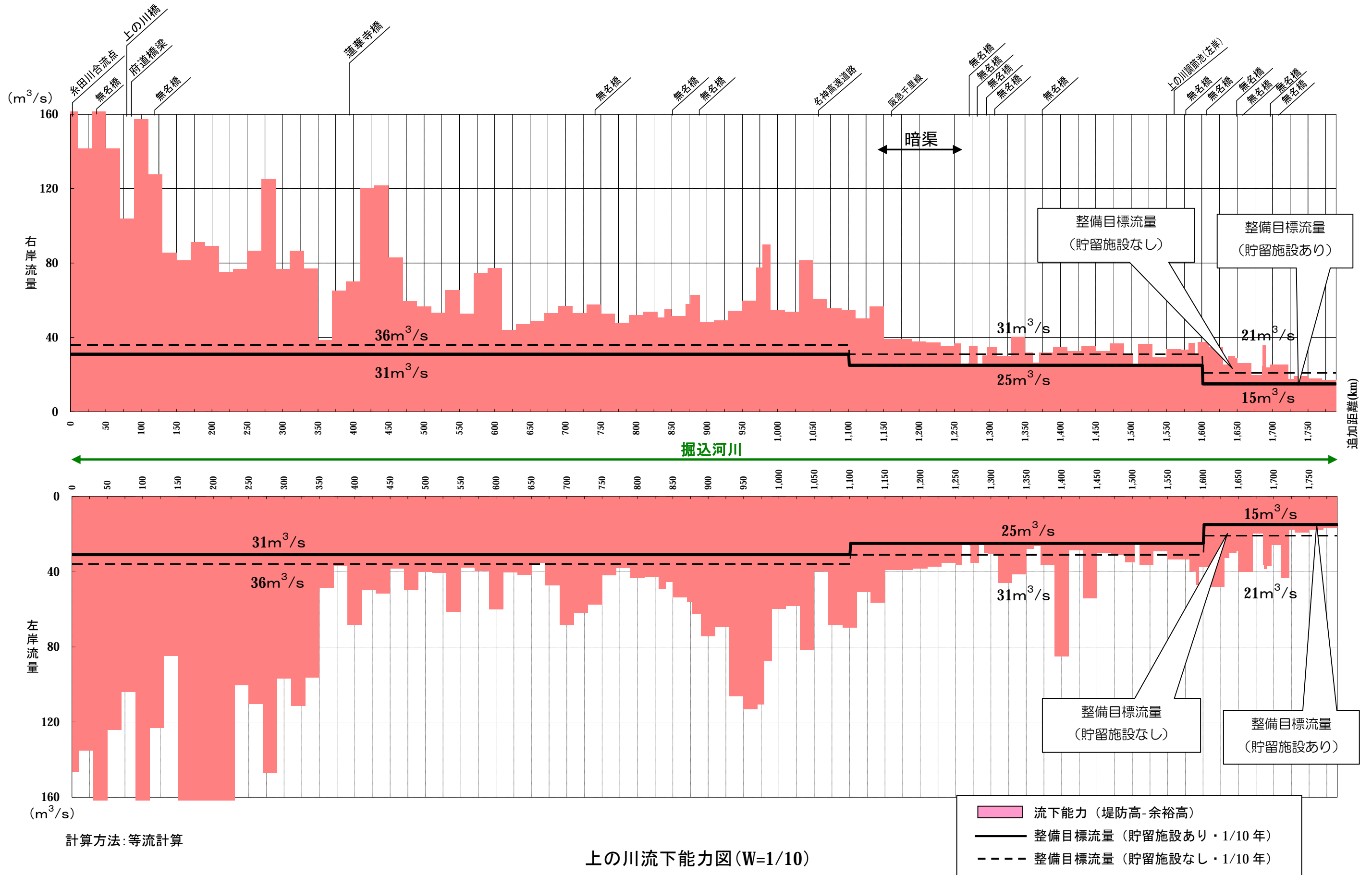


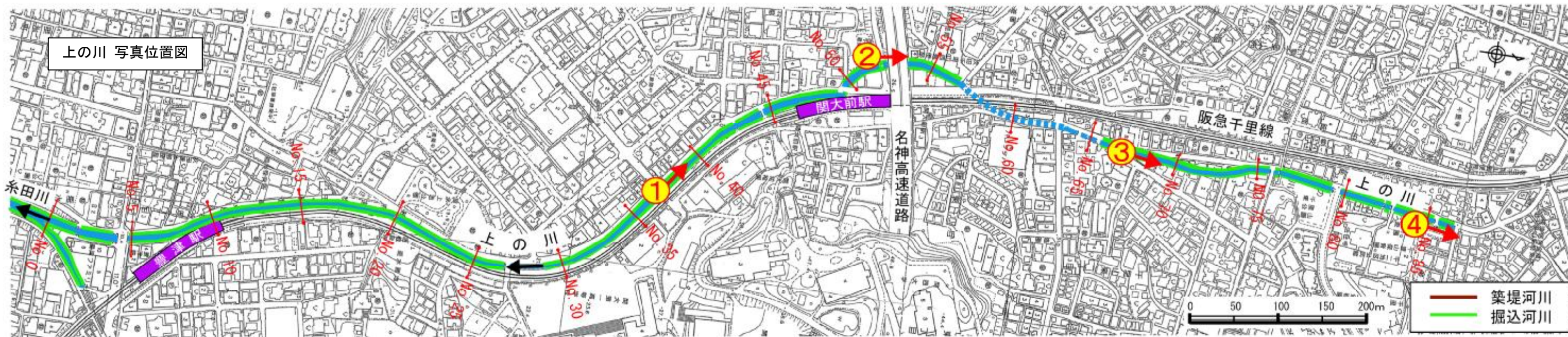
計画対象区間と整備内容

	整備内容	区間	概要
上の川	流出抑制施設	名神橋梁上流	ため池などの既存貯留施設の有効活用や新規調節池等を整備します。

糸田川・上の川^{かみ}の計画諸元表

項目		糸田川	上の川
流域面積 (km ²)	市街地	3.46	2.22
	水田	—	—
	畑・荒地 (公園)	—	—
	山地	—	—
	池 (水面)	—	—
	合計	3.46	2.22
流路延長 (km)		2.29	1.78
標高差 (m)		10.5	26.1
洪水到達時間 (分)		38.0	25.8
算定法		等流流速法	等流流速法
計画対象雨量	到達時間内降雨強度	100.1	83.1
	60分雨量	84.0	57.5
	降雨強度式適用地区	三島地区	三島地区
確率規模		1/100年	1/10年
算定方法		Gumbel	Gumbel
流出率	市街地	0.80	0.80
	水田	0.80	0.80
	畑・荒野	0.60	0.60
	池 (水面)	1.00	1.00
	山地	0.70	0.70
整備目標流量 (貯留施設なし)	基準点	五反田橋	^{かみ} 上の川橋
	ピーク流量(m ³ /s)	90	41
	比流量(m ³ /s/km ²)	26.0	18.5
整備目標流量 (貯留施設あり)	ピーク流量(m ³ /s)	80	31
	ピーク決定波形	中央集中型モデル降雨	
	比流量(m ³ /s/km ²)	23.1	14.0
流出計算方法		合成合理式	
備考			





① 左岸…阪急 右岸…府道(上流を見る)



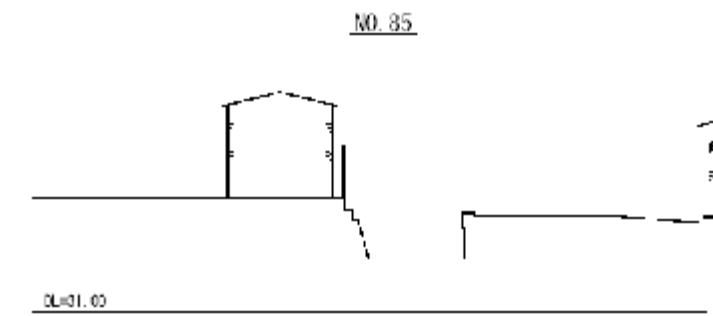
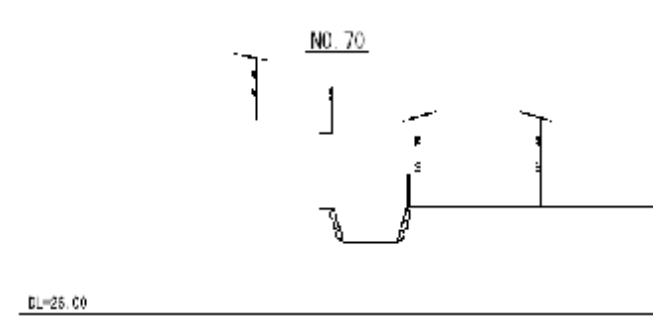
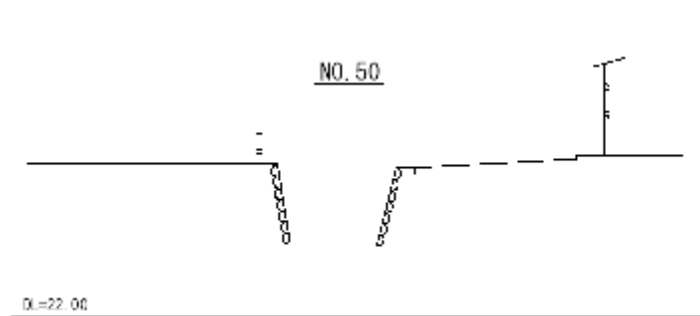
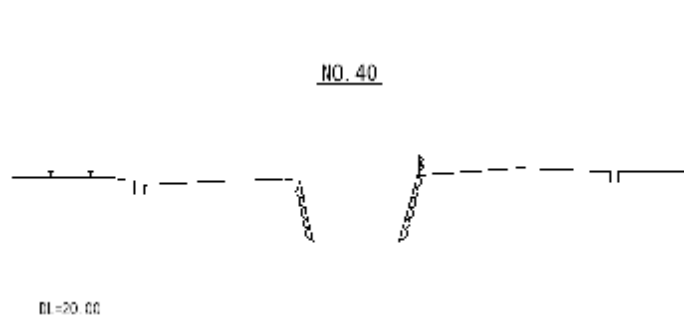
② 名神高速道路下(上流を見る)



③ 右岸…鋼製護岸(上流を見る)



④ 上流は暗渠(上流を見る)



6. 大正川

大正川の基本とする高水は、概ね 100 年に一度発生する規模の降雨(時間雨量 84.0mm)による洪水を対象とし、そのピーク流量は、基準地点「鶴野新橋」において 360m³/s とします。これを流出抑制施設の整備をおこなうことにより、大正川の基準点「鶴野新橋」において 330m³/s とします。

計画とする高水流量一覧表 (単位：m³/s)

河川名	基準点名	基本とする高水のピーク流量	計画とする高水流量
大正川	鶴野新橋	360	330

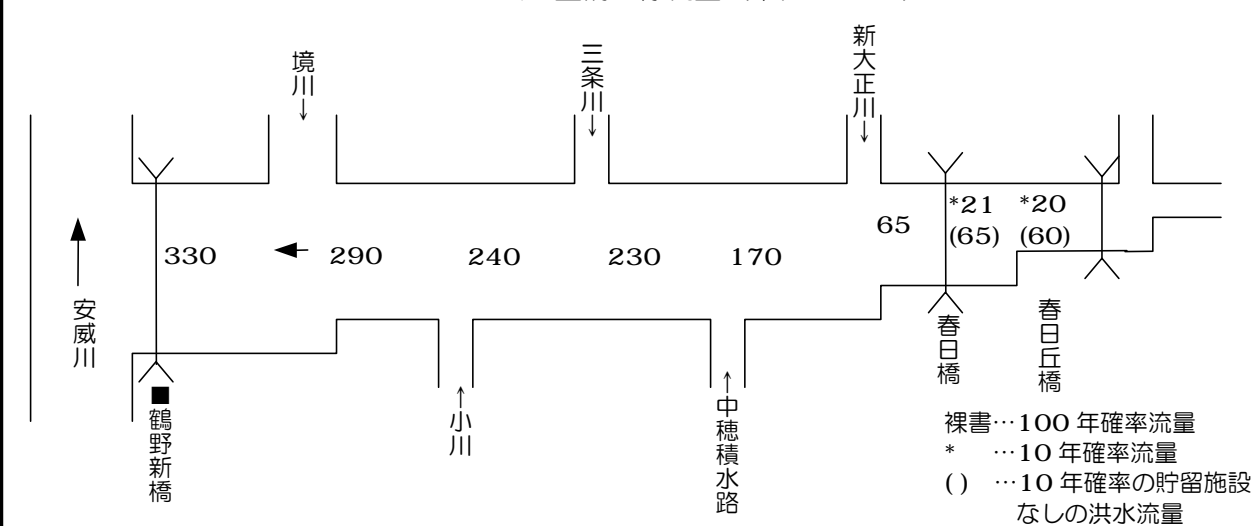
大正川の河川整備は春日橋上流で概ね 10 年に一度発生する規模の降雨(時間雨量 57.5mm)による洪水を対象とし、計画対象区間において、流域内のため池などの既存貯留施設の有効活用や新規調節池などの流出抑制施設を整備します。

改修にあたっては、周辺の環境に配慮します。

整備目標流量一覧表 (単位：m³/s)

河川名	地点名	整備目標流量
大正川	春日橋	21

大正川の整備目標流量 (単位：m³/s)

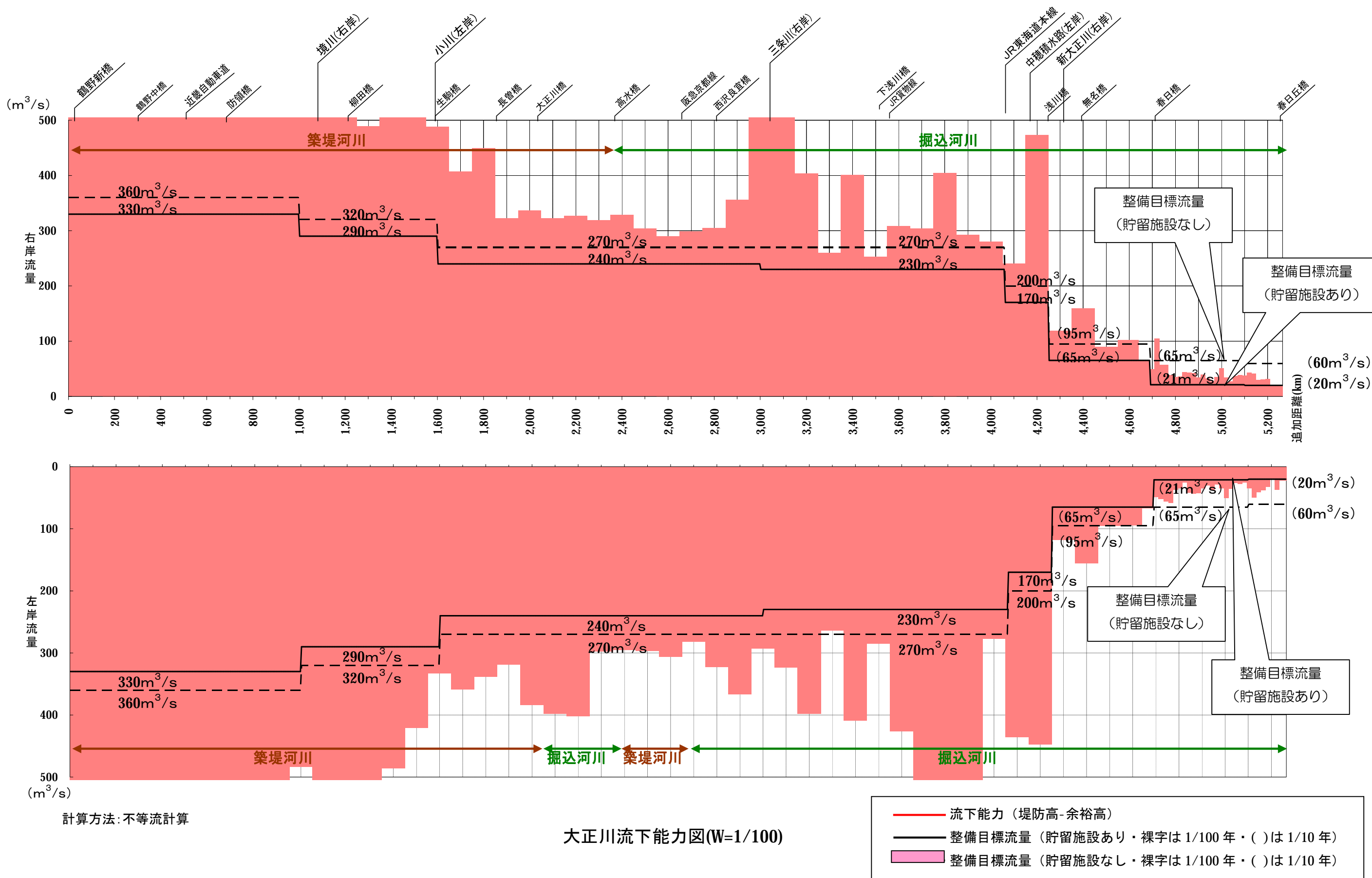


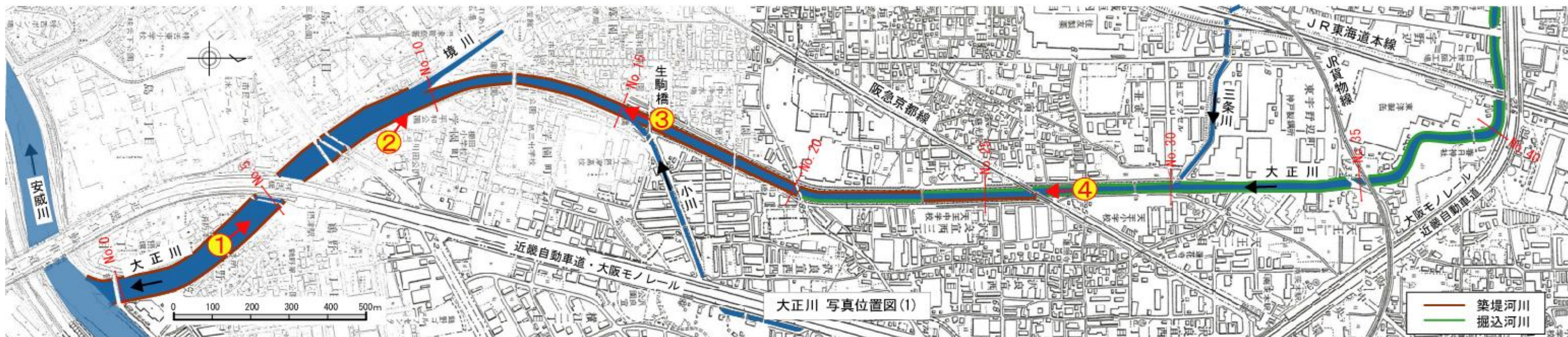
計画対象区間と整備内容

	整備内容	区間	概要
大正川	流出抑制施設	春日橋上流	ため池などの既存貯留施設の有効活用や新規調節池等を整備します。

大正川の計画諸元表

項目		大正川	大正川
流域面積 (km ²)	市街地	16.720	16.720
	水田	—	—
	畑・荒地 (公園)	0.387	0.387
	山地	1.479	1.479
	池 (水面)	0.364	0.364
	合計	18.950	18.950
流路長 (km)		5.26	5.26
標高差 (m)		17.6	17.6
洪水到達時間 (分)		58.8	58.8
算定法		等流計算流速の平均値 クラークの値	等流計算流速の平均値 クラークの値
計画対象雨量	到達時間内降雨強度	84.6	58.1
	60分雨量	84.0	57.5
	降雨強度式適用地区	三島地区	三島地区
目標規模		1/100年	1/10年
算定方法		Gumbel	Gumbel
流出率	市街地	0.80	0.80
	水田	0.80	0.80
	畑・荒野	0.60	0.60
	池 (水面)	1.00	1.00
	山地	0.70	0.70
整備目標流量 (貯留施設なし)	基準点	鶴野新橋	鶴野新橋
	ピーク流量 (m ³ /s)	360	220
	比流量 (m ³ /s/km ²)	19.0	11.6
整備目標流量 (貯留施設あり)	ピーク流量 (m ³ /s)	330	210
	ピーク決定波形	中央集中型モデル降雨	
	比流量 (m ³ /s/km ²)	17.4	11.1
流出計算方法		合成合理式	
備考			





① 河口付近より上流を見る(大阪モノレールを望む)



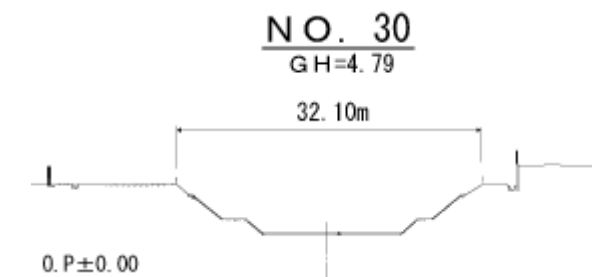
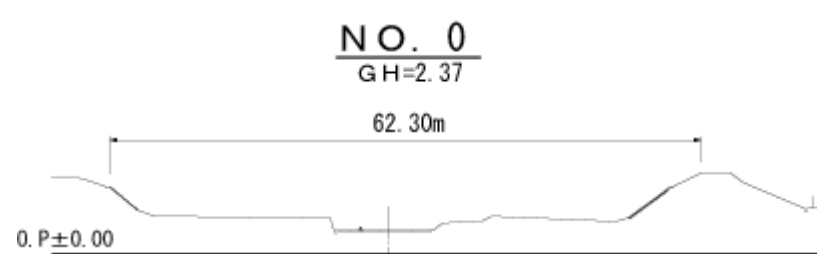
② 境川合流点(下流より見る。左-境川、右-大正川)

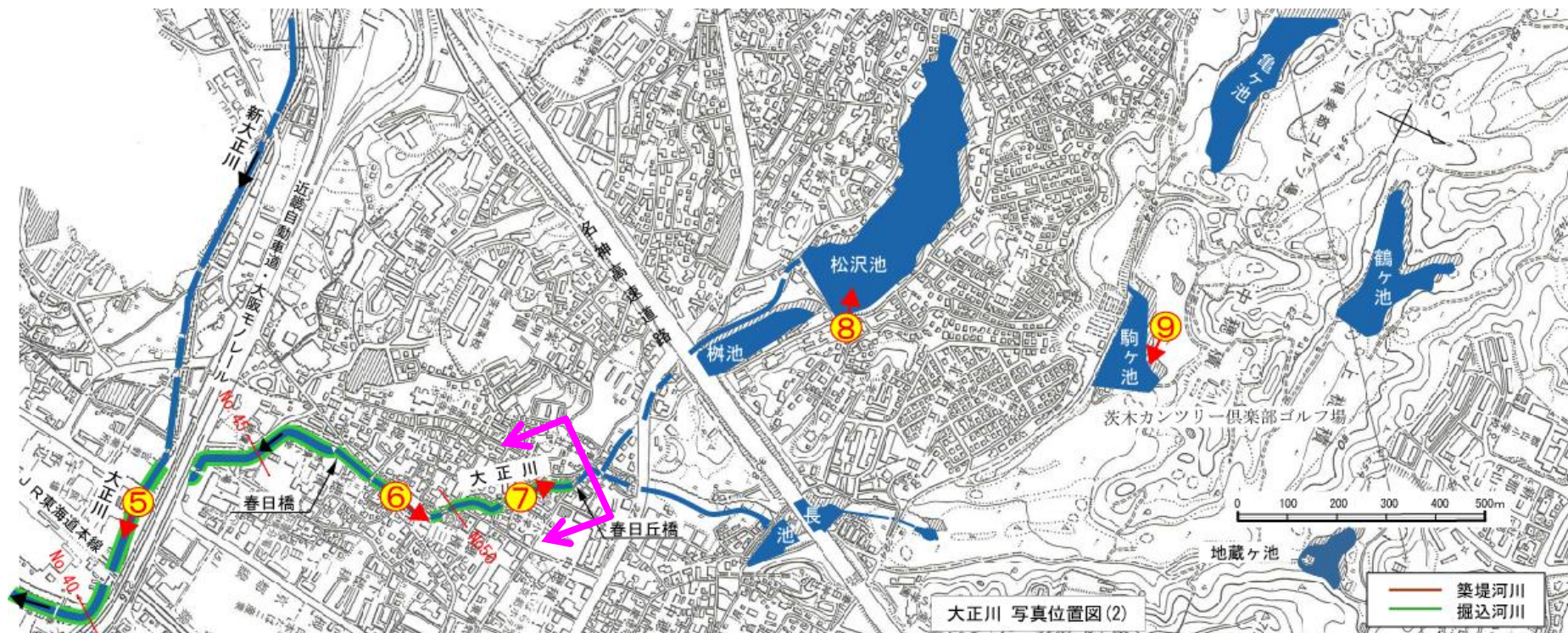


③ 小川合流点(上流より見る。左-小川、右-大正川)



④ 阪急京都線を上流より見る





⑤ 上流より見る(左から中央に大阪モノレール)



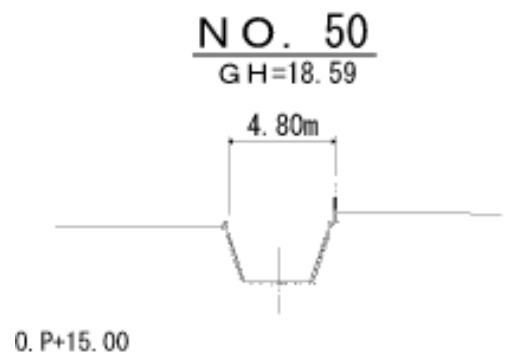
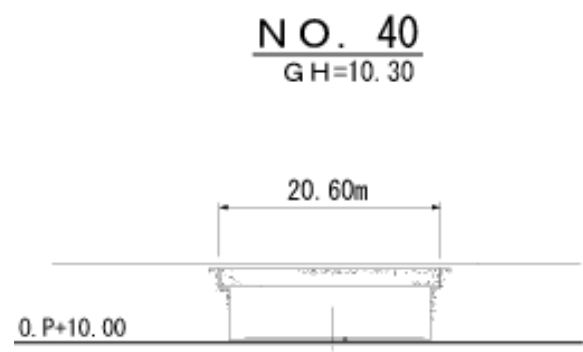
⑥ 住宅連たん区間



⑦ 管理区間上流(春日丘橋を望む)

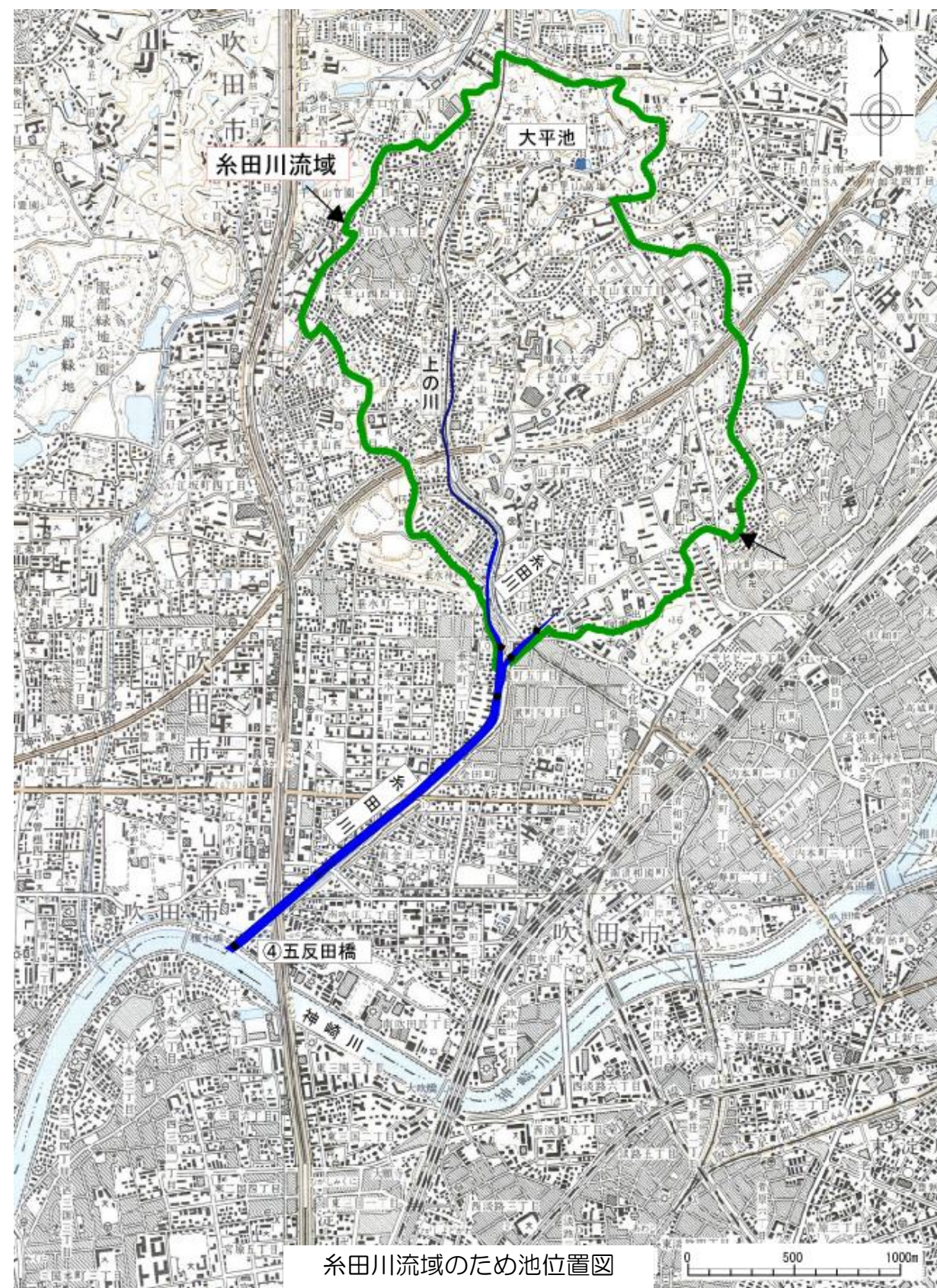
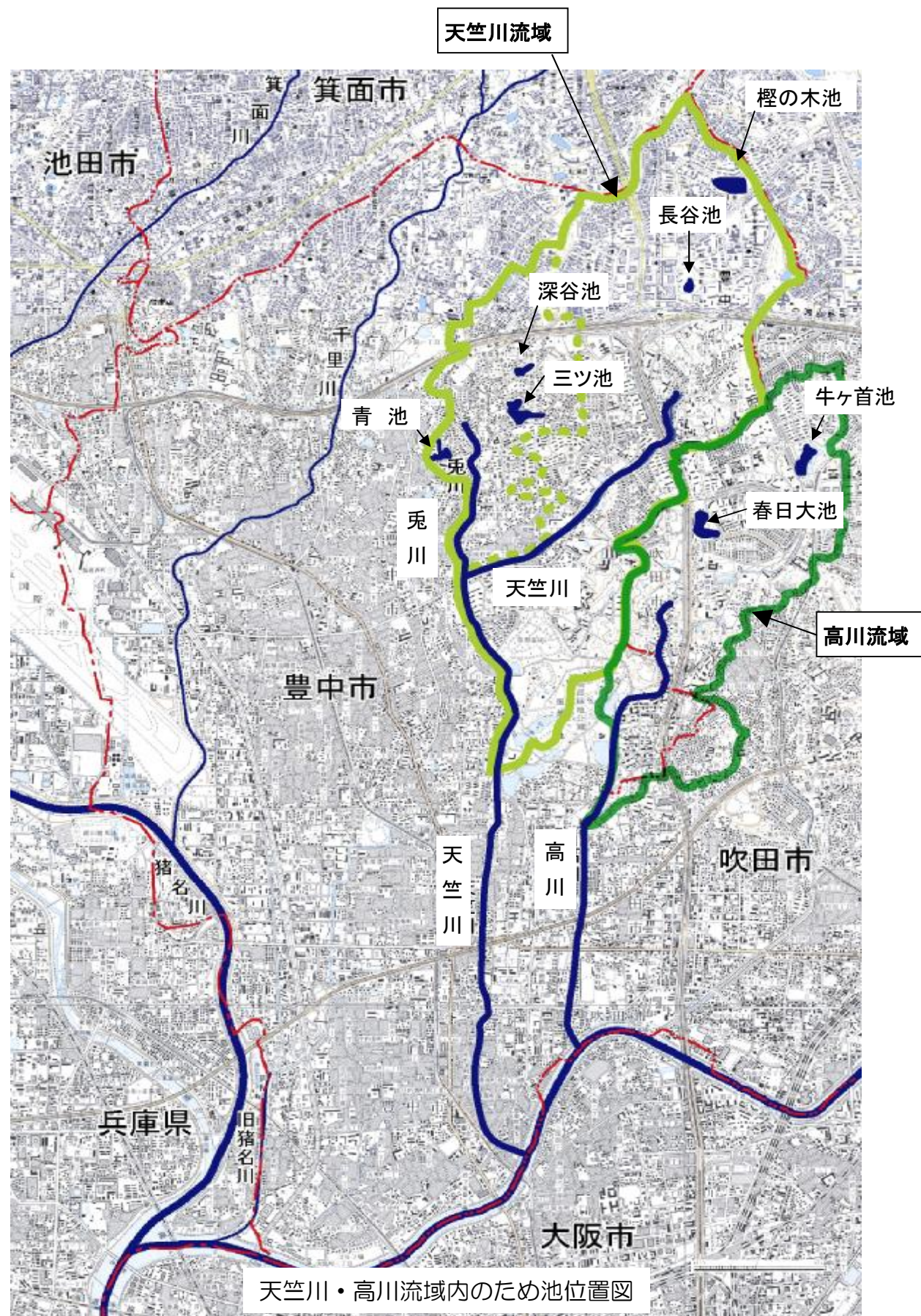


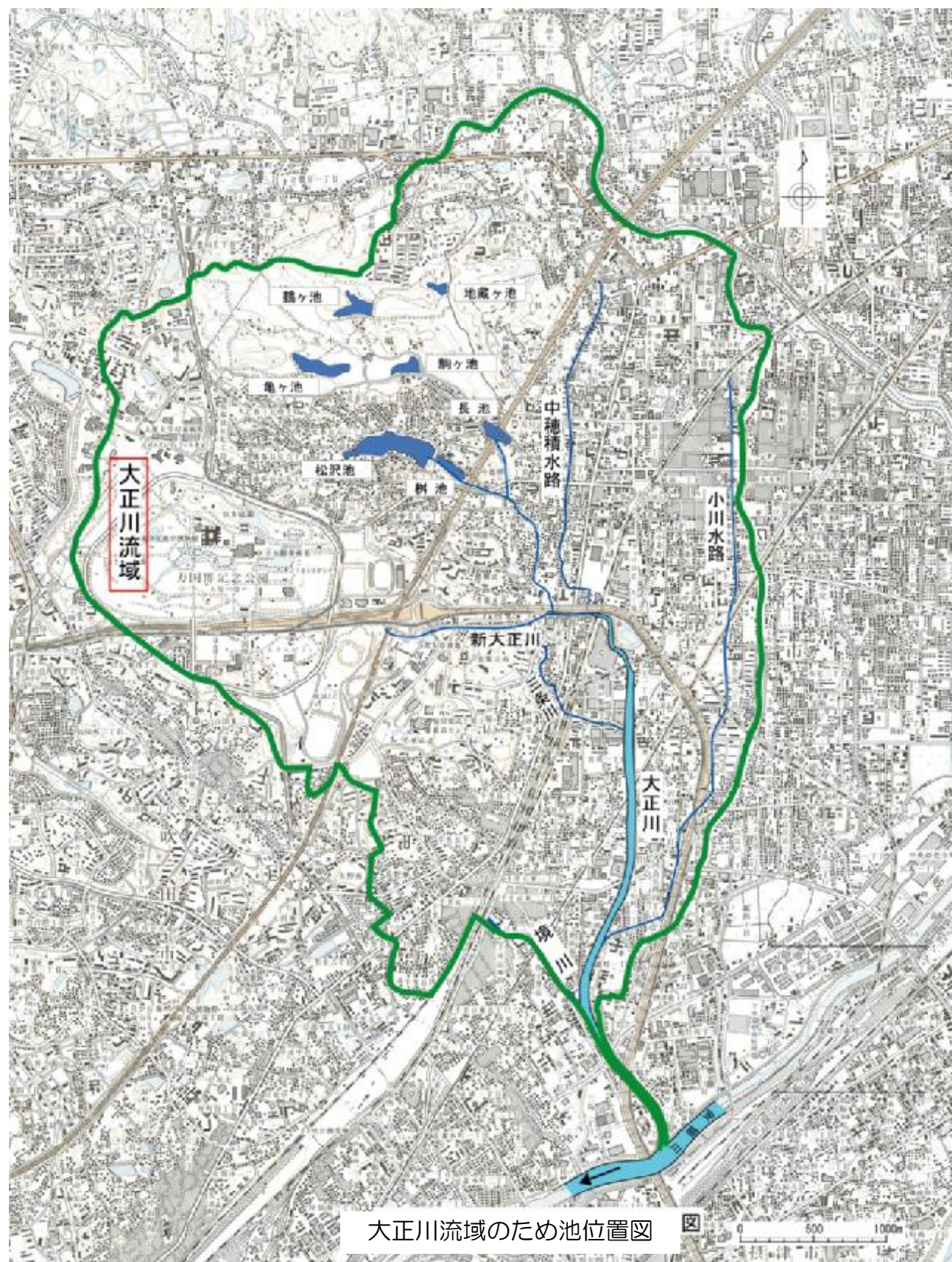
⑧ 松沢池



⑨ 駒ヶ池(茨木カンツリー倶楽部内)

○流出抑制効果の期待できるため池の位置について





7. 茨木川・佐保川

茨木川・佐保川では、上流域の国際文化公園都市の開発にあわせて平成9年3月に策定された「一級河川茨木川全体計画」に基づいた河川改修が進められており、現在、佐保川の福井上橋までの改修が完了しています。「一級河川茨木川全体計画」での基本とする高水は、概ね100年に一度発生する規模の降雨（日雨量247mm）による洪水を対象とし、そのピーク流量は、茨木川基準点の「安威川合流点」において600m³/s、佐保川基準点の「山西橋」において210m³/sとします。これを調節池で洪水調節をおこなうことにより、茨木川の基準点「安威川合流点」において550m³/s、佐保川の基準点「山西橋」において170m³/sとします。

計画とする高水流量一覧表 (単位：m³/s)

河川名	基準点名	基本とする高水のピーク流量	計画とする高水流量
茨木川	安威川合流点	600	550
佐保川	山西橋	210	170

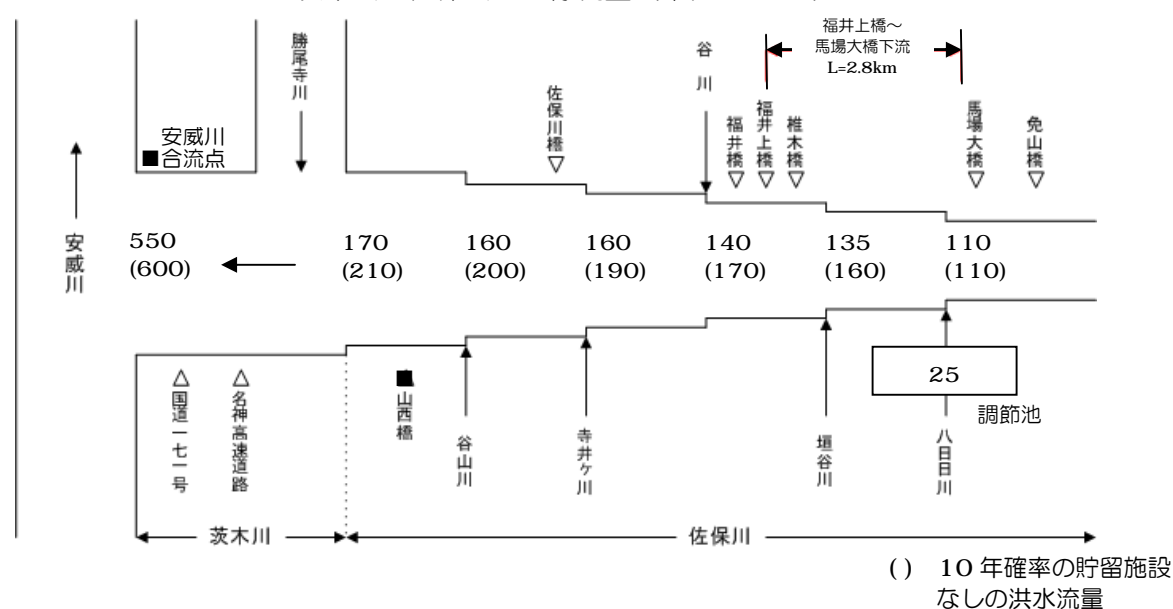
佐保川は概ね10年に一度発生する規模の降雨（日雨量171.1mm）による洪水を流下できない区間を整備対象とし、河道拡幅、河床掘削等の河道改修及び調節池の設置を行います。なお整備目標については、「一級河川茨木川全体計画」に基づき実施することとします。

改修にあたっては、周辺の豊かな自然環境に配慮した多自然型川づくりを行います。

整備目標流量一覧表 (単位：m³/s)

河川名	基準点名	整備目標流量
佐保川	山西橋	170

茨木川・佐保川の目標流量 (単位：m³/s)



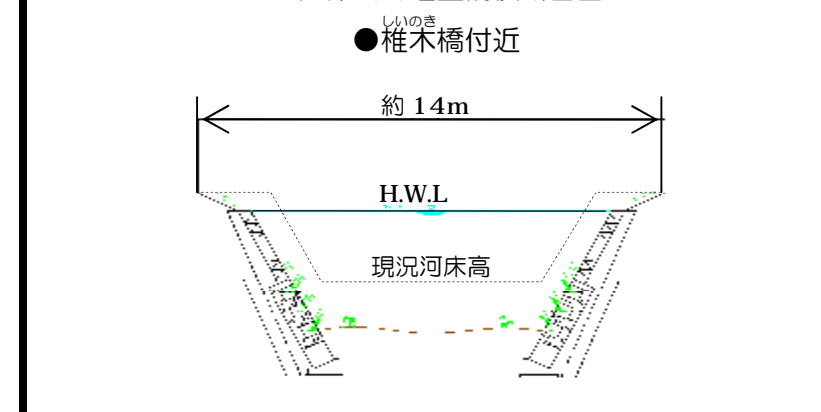
計画対象区間と整備内容

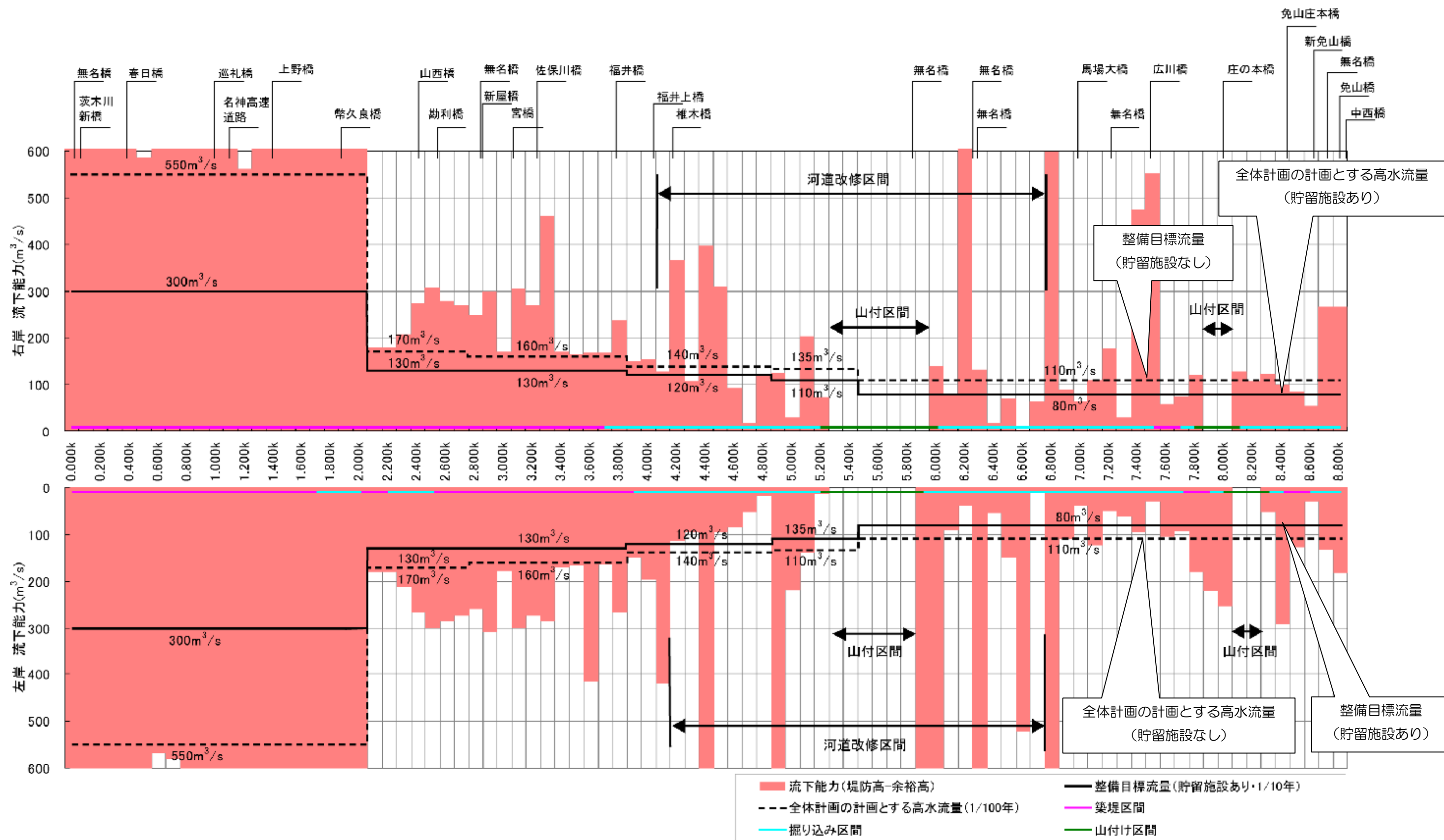
河川名	整備内容	整備区間	整備概要
佐保川	河道改修 L=2.8km	福井上橋～ 馬場大橋下流	河道拡幅、河床掘削等を行います。
	流出抑制施設	左支川 <small>ようかひ</small> 八日川流域等	新規調節池等を整備します。

茨木川・佐保川の計画諸元表

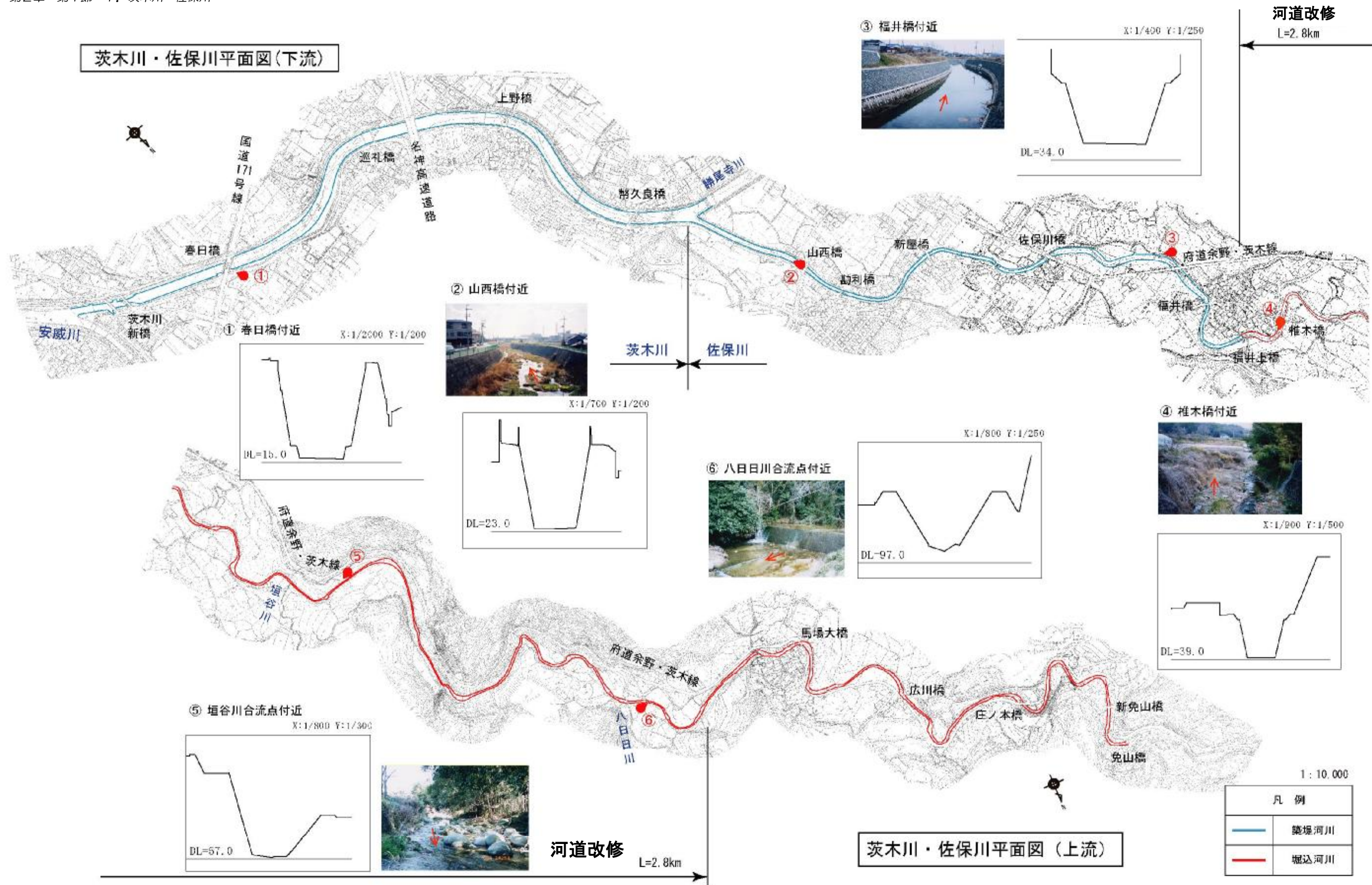
項目		茨木川 全体計画	佐保川 全体計画	佐保川 1/10
流域面積 (km ²)	市街地	30.23	9.72	
	公園・緑地等	—	—	
	水田	0.71	0.50	
	山林	9.06	3.74	
	水面	—	—	
	合計	40.00	13.96	
流路延長 (km)		13.30	11.2	
確率規模		1/100年	1/100年	1/10年
計画対象降雨量 (mm/日)		247.0	247.0	171.1
算定方法		Gumbel		
等価粗度	市街地	0.05		
	公園・緑地等	—		
	水田	1.00		
	山林	0.80		
	水面	—		
整備目標流量 (貯留施設なし)	基準点	安威川合流点	山西橋	
	ピーク流量 (m ³ /s)	600	200	150
	ピーク決定波形	モデル降雨	モデル降雨	S47.9
	比流量 (m ³ /s/km ²)	15.00	15.04	10.74
整備目標流量 (貯留施設あり)	ピーク流量 (m ³ /s)	550	170	130
	ピーク決定波形	モデル降雨	モデル降雨	S47.9
	比流量 (m ³ /s/km ²)	13.75	12.18	9.3
防災調節池洪水調節容量決定洪水		モデル降雨	モデル降雨	S47.9
流出計算方法		等価粗度法		
備考				

佐保川河道整備横断面図





佐保川流下能力図



第2節 河川維持の目的、種類及び施工の場所

神崎川ブロック内の法河川の維持管理に関しては、災害発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、河川の有する多面的機能を十分に発揮させるよう適切に行うものとします。

堤防及び護岸等の河川管理施設の機能確保のために、築堤護岸の土質調査、試験等及び安全性の検討を行い、必要な堤防の質的強化の実施や、老朽化した護岸の改修を行います。

また、河道の所定の流下能力を確保するため、必要に応じて河川管理施設の点検を行い、必要な箇所においては堆積土砂の除去や河床低下を防止するための床止め工設置等の機能維持更新を計画的に行います。

ダイオキシン類の環境基準値を超過している底質の浄化については、学識経験者等からなる委員会での検討を踏まえ、対策を行います。

河川の占用工作物については、河川管理上支障とならないよう適切な許認可を行います。河川利用を妨げ、景観や水質にも問題となる不法投棄については、必要に応じてブロック内の関係市町や関係機関及び地元住民等と連携しながら、適切に対応することとします。

河川空間の良好な維持管理の観点から河川清掃や環境整備については、近年の川に対する関心の高まりとともに神崎川、佐保川、勝尾寺川、安威川、天竺川などにおいて、住民活動も活発に行われてきており、NPO や市民団体等との連携を進めていきます。このため河川断面に余裕のある箇所では階段を設ける等の工夫に努めます。

さらに、河川形状の変化に十分な注意を払うとともに、河川水辺の国勢調査等のモニタリングを行い、河川環境の維持に努めます。

安威川ダム建設に伴って実施する自然環境保全対策については、ダム完成後も追跡調査等を行い、その効果を確認するとともに、ダムの維持管理と併せて必要な対策を行います。上下流に対しても、より良い河川環境の創出に努めます。

一方、洪水の発生により堤防等の河川管理施設が被災した際には、二次災害を防止するため応急的な対策を図り、出水後速やかに機能復旧を行います。

●ダイオキシン類等底質浄化対策区間

河川名	対策区間	延長
神崎川	猪名川合流点上流～十八条大橋	5.2km

●アドプト・リバー・プログラム

大阪アドプト・リバー・プログラムとは、美化活動を行う団体（自治会、企業等）、市町村、河川管理者である大阪府の三者で、美化活動や、河川管理者・市町村の協力、分担の内容などを定めて協定を結ぶものです。このプログラムは、府民の方々の自発的な地域活動を河川の美化につなげ、地域に愛され大切にされる川づくりを目指しています。

大阪府では参加団体に清掃用具の貸出や、美化活動区間を示すサインボード等の設置、美化活動中のけがに備えた保険料の負担を行っています。また、地元市町村では回収したごみの処理を行っています。

神崎川で5箇所、安威川で4箇所、大正川、箕川で2箇所、佐保川、勝尾寺川、天竺川でそれぞれ1箇所実施されています。

地域の特性や河川の形状などに合わせ、自由な形式で清掃活動を支援するのがプログラムのポイントで、河川敷を使った地域の祭りに清掃活動を組み込んだり、花の栽培も同時に進めるなどの例もあります。

河川名	アドプト・リバー
神崎川	アドプトリバー・小松橋
	神崎川アドプト・リバー・水鳥
	神崎川アドプト・リバー・神洲町（3ヶ所）
	アドプト・リバー・三国
	アドプト・リバー・新東三国
安威川	アドプトリバー・南正雀
	アドプト・リバー・太田
	アドプト・リバー・井高野
	アドプト・リバー・安威川東
天竺川	アドプト・リバー・天竺川テゾエプレ
大正川	アドプト・リバー・下穂積三丁目梅
	アドプト・リバー・大正川
佐保川	アドプト・リバー・佐保川
勝尾寺川	アドプト・リバー・勝尾寺川
箕川	アドプト・リバー・箕川（2ヶ所）



佐保川活動状況

*平成 18 年 9 月現在

第3章 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項

1. 地域や関係機関との連携に関する事項

河川整備を総合的に行うために、国や市、下水道管理者等、関係機関と連携を図ります。

下水道整備とあわせて、既存のため池などの貯留施設を流出抑制施設として有効活用するための協議も積極的に行います。

また、流域内には桁下が計画高水位（H.W.L）を下回る等改築が必要な橋梁が存在しています。このような橋梁は洪水流を阻害し、洪水時に破堤や越水などを引き起こすおそれがあります。架け替え計画検討の際には関係機関と治水の観点から積極的な協議を行います。

古くから安威川、鳥飼水路、番田井路などの河川、水路および井堰・ため池を活用した水利用が行われてきた歴史や文化をふまえ、上下流の連続性の観点から井堰の運用や構造、水利用について農業関係機関と協議し、水環境の一層の向上に向けた連携に努めます。さらに健全な水循環系の確保の観点から、流域の森林の保全に努めます。

将来、河川環境の良好な姿を引き継いでいくためには、地域住民や地元市町との連携が重要です。例えば吹田市域の「江坂企業協議会」のまちづくり活動や、神崎川の「神崎川畔企業連絡会」の美化活動やまちづくりの提言、天竺川での「^{はっとり}服部緑地・天竺川周辺「地域の魅力・顔づくりプロジェクト」推進連絡協議会」における河川の環境整備について検討が行われています。このように近年の川に対する関心の高まりとともに活発に行われてきている住民や NPO、企業等による河川清掃や、生物調査など総合学習の取り組み等を支援し、協働による川づくりを進めます。

「服部緑地・天竺川周辺「地域の魅力・顔づくりプロジェクト」推進連絡協議会」



水辺の学校 下音羽川



水辺の学校 教諭対象

2. 地域などへの連携

地域に愛される川づくりを目指し、地域住民をはじめ、NPO、市民団体、企業や関係機関などとの情報共有に取り組んできましたが、今後も地域が主体となった川づくりの一層の推進を図るため、連携を強化します。あわせて、日頃から川に親しんでもらうため、河川に関する情報を住民に提供するとともに、施設見学会、出前講座や水辺で活動する団体の地域交流会など情報交換の場の提供・演出、アドプト・リバー・プログラムを活用した美化・清掃活動、住民によるクリーンキャンペーンなどの活動を支援することにより、川の再生を共に育んでいくよう、河川愛護思想の普及に努めていきます。



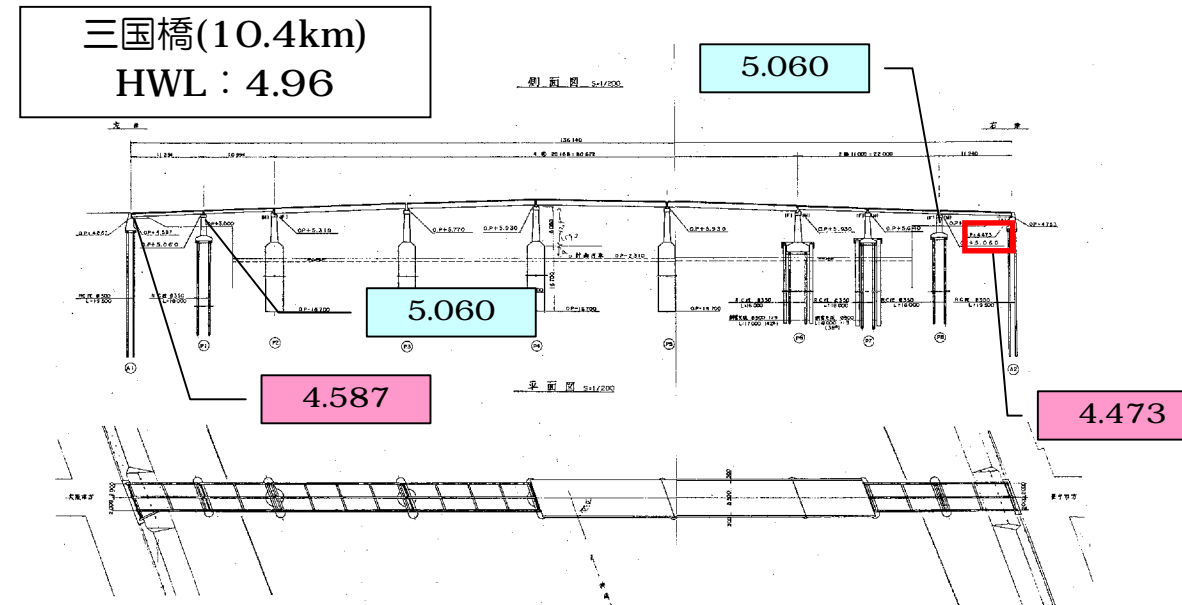
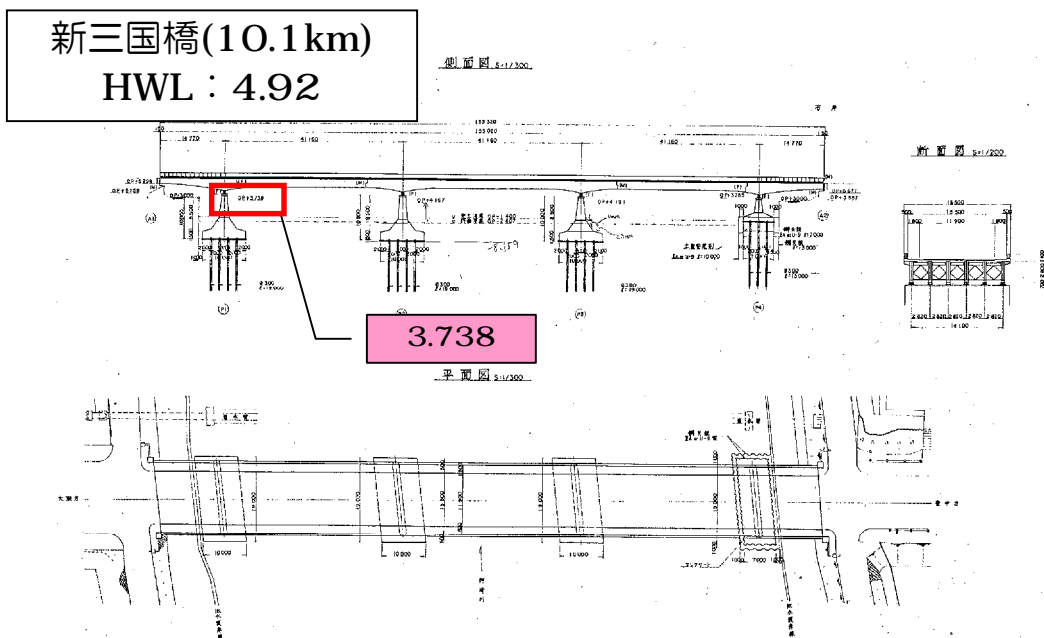
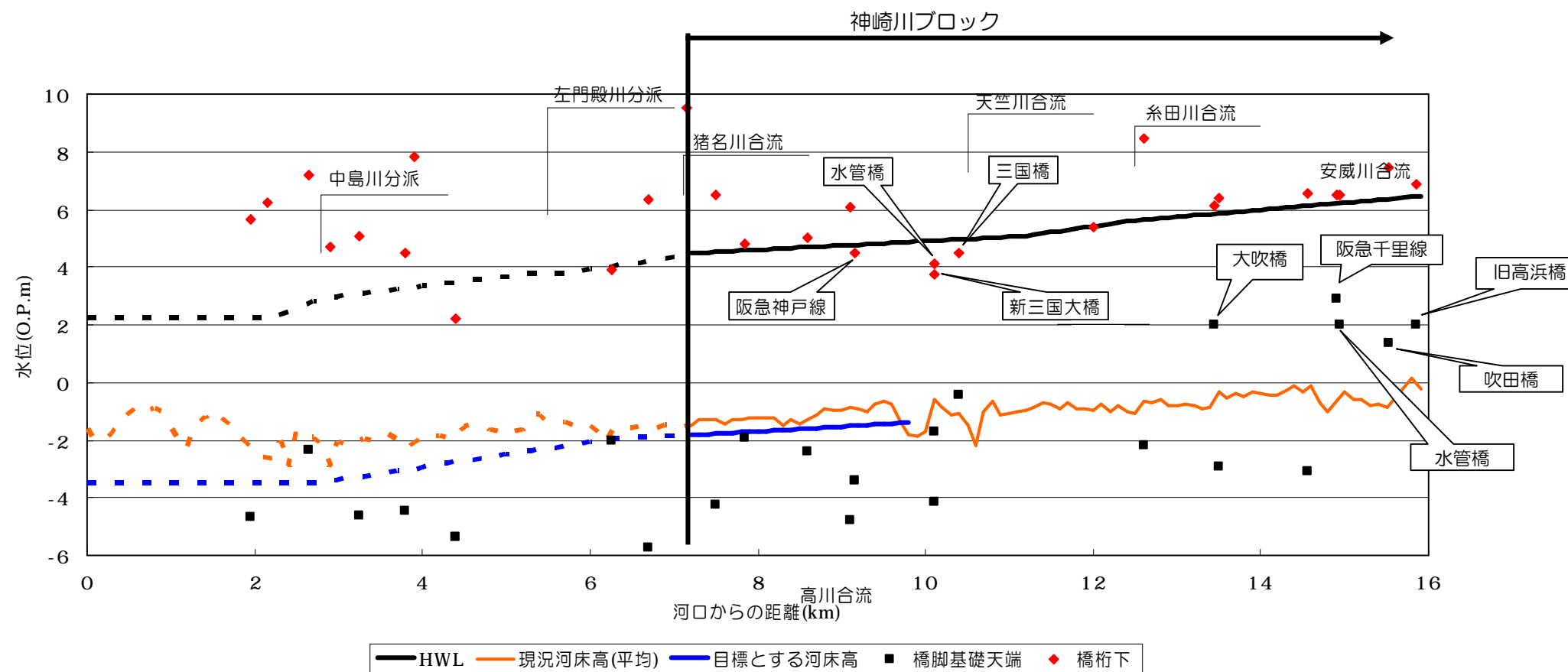
河川清掃



ワークショップ

○ 橋梁の架け替えに関する事項

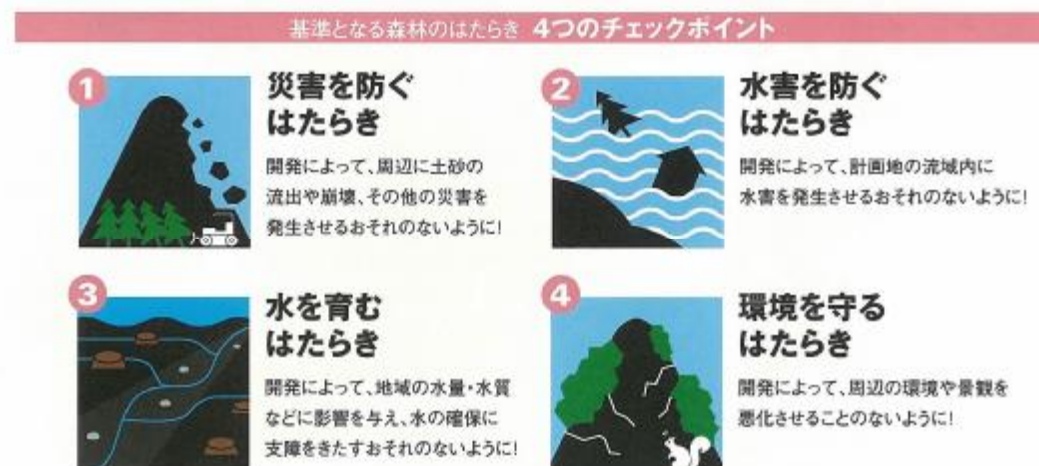
例えば神崎川では、阪急神戸線、水管橋、三国橋、新三国橋の桁下が計画高水位を下回っています。



○ 森林の保全について

☆ 適切に森林を残すための施策

「近郊緑地保全区域」「地域森林計画対象民有林」「自然公園区域」の地域では一定規模以上の開発行為に対して許可・届出が必要となり、森林の持つ重要なはたらきが損なわれないような規制がかかります。



上図の出典：林地開発許可制度 林野庁より

☆ 各区域の目的

「近郊緑地保全区域」〔近畿圏の保全区域の整備に関する法律〕

保全区域内における文化財の存続、緑地の保全又は観光資源の保全若しくは開発に資することを目的としています。

「地域森林計画対象民有林」〔森林法〕

森林の土地の適正な利用を確保することを目的としています。

「自然公園区域」〔自然公園法〕

すぐれた自然の風景地の「保護」と「利用の促進」を図り、国民の保護、休養、教化をはかります。

+ 健全な水循環系

流域を中心とした水循環系における一連の水の流れの過程で、水利用や治水など人間社会の営みに果たす水の機能と自然環境の保全に果たす水の機能が、適切なバランスのもとに、共に保全されている状態で、それぞれの流域での自然特性やそこでの水利用状況などの社会特性により規定されるもの。

(国土交通省ホームページ：用語解説ページ より)

2. 河川情報の提供に関する事項

流域内では、市街地化が進んだ結果、河川沿いに宅地が近接しています。計画規模を上回る洪水や施設の流下能力以上の洪水が発生した場合には、甚大な被害が発生することが予想されます。

そのため、各河川の浸水想定区域図をもとに流域の各市町が作成する避難経路や避難場所を示した洪水ハザードマップ作成等への支援を行い、洪水被害が発生した場合の浸水状況や避難場所について地域住民に認識してもらおうとともに、防災講座などによる積極的な危機管理意識の向上に努め、降雨時における雨量や河川水位情報、特定の河川における洪水予報などの防災情報を危険の程度を分かりやすくホームページやケーブルテレビなどで提供することにより、住民の安全な避難行動や地域防災活動を推進し、被害の軽減に努めます。

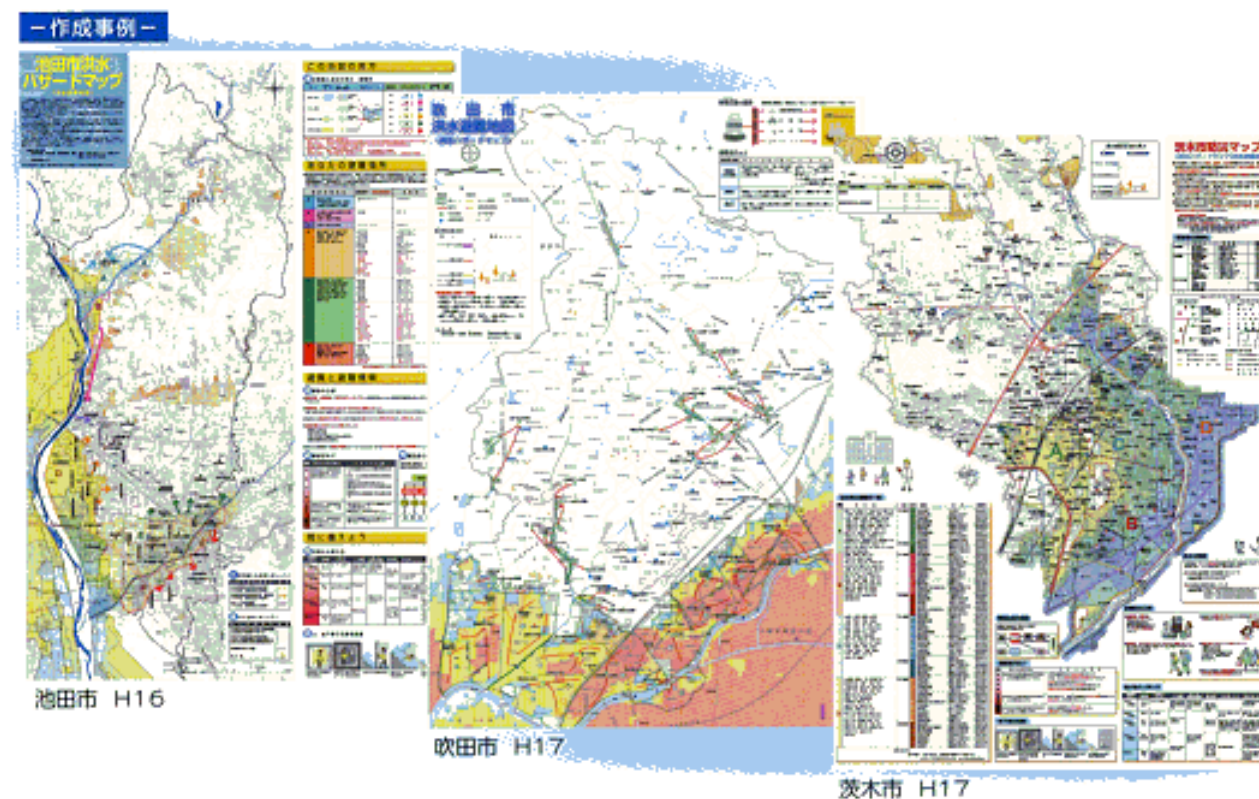
さらに、河川には、早瀬や淵等、さまざまな河川の形状や流れがあり、こういった河川における知識を水辺の学校などの体験学習によって普及することにより河川内での未然の事故防止に努めます。

また、都市として成熟した神崎川ブロックの府民の方へ各々のニーズに対応した河川に関する情報を提供するため、河川環境情報図などはホームページなどを通じて公開するとともに、府民の方々からの情報提供を頂き、それを反映して内容の充実を行うことで、情報の共有化を進めていきます。その際には、府民の誰もが理解し易いように、寄せられた意見を基に改良・工夫を加える様に努めるとともに、過去に起きた水難事故やその状況等についても盛り込んでいくことで、注意を喚起し、その再発防止に努めます。

さらに情報発信の方法についても、ホームページや広報誌だけでなく、高齢化社会に対応した情報発信の方法を検討したりするなど、日常生活の中で簡単に情報が入手できるように、多様な情報発信手法の検討を行い、「生活情報としての河川情報」の発信に努めます。

そのほか、これまでに収集整理した治水事業の沿革や河川名の由来などの河川にまつわる歴史・文化、動植物調査や水質調査結果などの情報提供を出前講座、各種イベントなどにより積極的に行うことで、河川への関心を深めてもらえるように努めます。

神崎川ブロック流域市のハザードマップ作成状況



水辺の学校



河川出前講座



高齢者への情報提供